

**平成 21 年度**  
**御嵩町小学校における交通・環境学習等支援事業**  
**報告書**

**平成 22 年 3 月**  
**御 嵩 町**

## <目次>

### 本編

1. 事業の目的と概要	1
1.1 事業の目的	1
1.2 事業の枠組み	1
1.3 事業の概要	3
2. 「交通・環境学習」の実施	7
2.1 「交通・環境学習」検討概要	7
2.2 授業実施計画	9
2.3 事業実施内容	11
3. 学習の検証・評価	21
3.1 授業の検証・評価	21
3.2 課題整理	28
4. 情報提供・広報啓発の取り組み	29
4.1 情報提供・広報啓発の取り組み計画	29
4.2 実施した情報提供・広報啓発の取り組み	30
4.3 課題と今後の情報提供・広報啓発の取り組み方針検討	40
5. 今後の課題と次年度に向けた検討企画（案）検討	43
5.1 まとめと課題	43
5.2 次年度検討企画（案）	44

### 資料編

資料 1. 御嵩町交通・環境学習支援事業推進委員会平成 21 年度委員等名簿

資料 2. 学習指導案

資料 3. 教員によるとりまとめ資料

参考資料：教材等事例

## 1. 事業の目的と概要

### 1.1 事業の目的

自然豊かな郷土、中山道をはじめとした歴史や文化などを有する風土を背景として、学校教育の場で、身近な郷土への愛着と公共心を醸成するため、地球温暖化防止をはじめとした環境保全と中山道をはじめとした歴史や文化などの地域に密着した交通をテーマとした「交通・環境学習」を推進する。

平成 20 年度は、事業実施準備期間と位置付けて、検討体制を立ち上げ、基礎教材の開発と単元、カリキュラム構成の検討を開始した。

平成 21 年度は、モデル校である御嵩小学校で、「交通・環境学習」を実施して検証し、次年度以降の町内全校での取り組みに向けた課題を整理してその対応を検討する。

### 1.2 事業の枠組み

#### (1) 対象

平成 21 年度：御嵩小学校

平成 22 年度：町内の 3 小学校

将来的には、中学校での学習も視野に入れる。

#### (2) 事業の目標

事業期間における年度別の目標と検討項目を表 1.2.1 に示す。

#### (3) 経緯

「平成 20 年度御嵩町小学校における交通・環境学習等支援事業」委託業務報告書

平成 21 年 3 月 御嵩町

表 1.2.1 年度別事業の目標と検討項目

年度	位置付け	目標	検討項目
平成 20 年度	事業実施準備	1.検討体制の立ち上げ 2.基礎教材の開発 3.単元、カリキュラム構成	(1)検討体制、事業の進め方の検討 (2)基礎教材の開発検討 (3)単元、カリキュラム構成及び授業の進め方の検討 (4)事業評価方法の検討
平成 21 年度	学習実施と展開	1.教材の開発、拡充 2.モデル校での「交通・環境学習」の実施と検証	(1)教材、テキストの開発、作成検討 (2)モデル校での授業実施と検証、評価 (3)町内全校実施に向けた課題への対応検討
平成 22 年度	持続的な取り組みシステムの構築	1.町内全小学校での「交通・環境学習」の実施 2.取り組み支援体制と仕組みの構築 3.御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成(初版)	(1)教材、テキストの開発、作成検討 (2)町内全校での授業実施と検証、評価 (3)持続的な取り組みシステムの検討 (4)御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成検討
平成 23 年度	取り組みの継続・発展	1.継続的・発展的な取り組みの定着 2.御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成(改訂版) 3.中学校での取り組み開始	(1)教材、テキストの開発、作成検討 (2)取り組みの検証、評価 (3)御嵩町版「交通・環境学習」実施要領改定検討 (4)中学校での取り組みに向けた検討

### 1.3 事業計画概要

#### (1) 概要

本年度事業では、御嵩小学校において本格的に「交通・環境学習」を実施し、検証・評価を行って、次年度の町内全校での実施に向けた課題への対応を行う(図 1.3.1)。

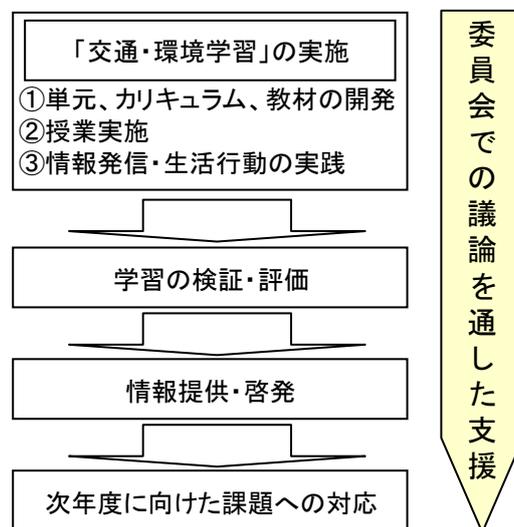


図 1.3.1 平成 21 年度事業の全体構成

#### (2) 「交通・環境学習」の実施

御嵩小学校で、次のような枠組みで「交通・環境学習」を実施し、これを支援する。

授業は、原則として小学校教師がこれを行い、授業に係る検討項目については、教師の皆様方の検討を支援することとする。

- 1).対象学年：全学年で取り組む
- 2).授業実施：研究会形式で実施（公開授業を予定する）
- 3).スケジュールとテーマ：(資料 4 参照)
- 4).検討項目：
  - ①単元、カリキュラム、教材の開発
  - ②授業実施
  - ③情報発信・生活行動の実践

ここで、検討項目の内容は、次のとおりである。

##### ① 単元、カリキュラム、教材の開発

- ・ 各学年において、交通・環境教育に関する問題解決学習が行えるような「総合的な学習」、「社会科」「生活科」の単元、カリキュラム、教材を開発す

る。

→取り組みテーマは、各学年で設定。

## ② 授業実施

- ・ 授業での指導を通して、1つの取り組みに対して試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成功感を味わわせるための手立てを考える。

→問題解決学習を成立させるプロセス及び学習スタイルの指導。

## ③ 情報発信・生活行動の実践

- ・ 調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと話し、伝えることができる子供をめざし、そのための手立てを考える。

→発表会、ポスターセッション、標語提言など。

## (3) 学習の検証・評価

平成21年度以降の町内全校での取り組みに向けて、平成20年度に検討した事業評価の方法に基づいて、学習の基本目標とねらいを達成するという視点、および継続的な実施に向けたシステムを構築するという視点で検証、評価する。

学習の基本目標に対しては、各教材を使用した学習成果を評価するといった視点とともに、表1.3.1に示す学習の基本的目標に対する評価を、学習の主体者である児童と教師へのヒアリングなどを通して、可能な限りアンケート調査等で定量評価する。

また、事業実施システムを構築していくという視点での評価を行うこととし、関係した主体全員を対象としてヒアリングを行い、事業実施結果を評価していただき、良かった点・悪かった点を抽出して課題を整理するとともに、今後の継続的な実施に向けた意見を求めることとする。評価の対象は、柿に示すとおりとする。

表 1.3.1 学習成果の評価項目

視点	評価項目
学習の基本的目標	基本知識の定着
	学習への意欲を増進
	思考力・判断力・表現力等の生きる力を養成
テーマに即した目標	社会的問題に主体的に取り組む姿勢の養成
	社会的な行動への反映
	行動する喜びを醸成

### ○評価の対象

- ・ 教師
- ・ 教育委員会

- ・ 行政団体
- ・ 授業支援者：保護者、チューター
- ・ 学識経験者

#### (4) 情報提供・啓発

「交通・環境学習」を、継続・発展させていくためには、実際の学習現場での取り組みを関係者に配信して情報を共有する事が不可欠である。とくに、平成 21 年度に取り組む町内の全小学校の教師には、本年度の授業内容を知っていただかなければならないし、御嵩小学校での取り組みを継続していくためには、小学校内の他の教師、保護者、そして支援する関係者に情報を提供しなければならない。

このため、次のような情報提供・啓発を展開することを試みる。なお、これらの情報提供・啓発活動には、関係者の多大なる協力が必要であり、関係者への依頼、協議を行ったうえで、可能な範囲で実施する。

##### ①研究会授業（公開授業）

- ・ 授業は原則として研究会形式とし（公開授業）、町内全小学校の関係する教師に参加していただいて、授業に触れていただく。
- ・ 「標語提言」のための掲示板を作成して、公共施設などで広報して、広く町民に知っていただく。

##### ②報告書概要編の関係者への配布

- ・ 本年度事業をとりまとめた報告書概要編を、関係者に配布する。

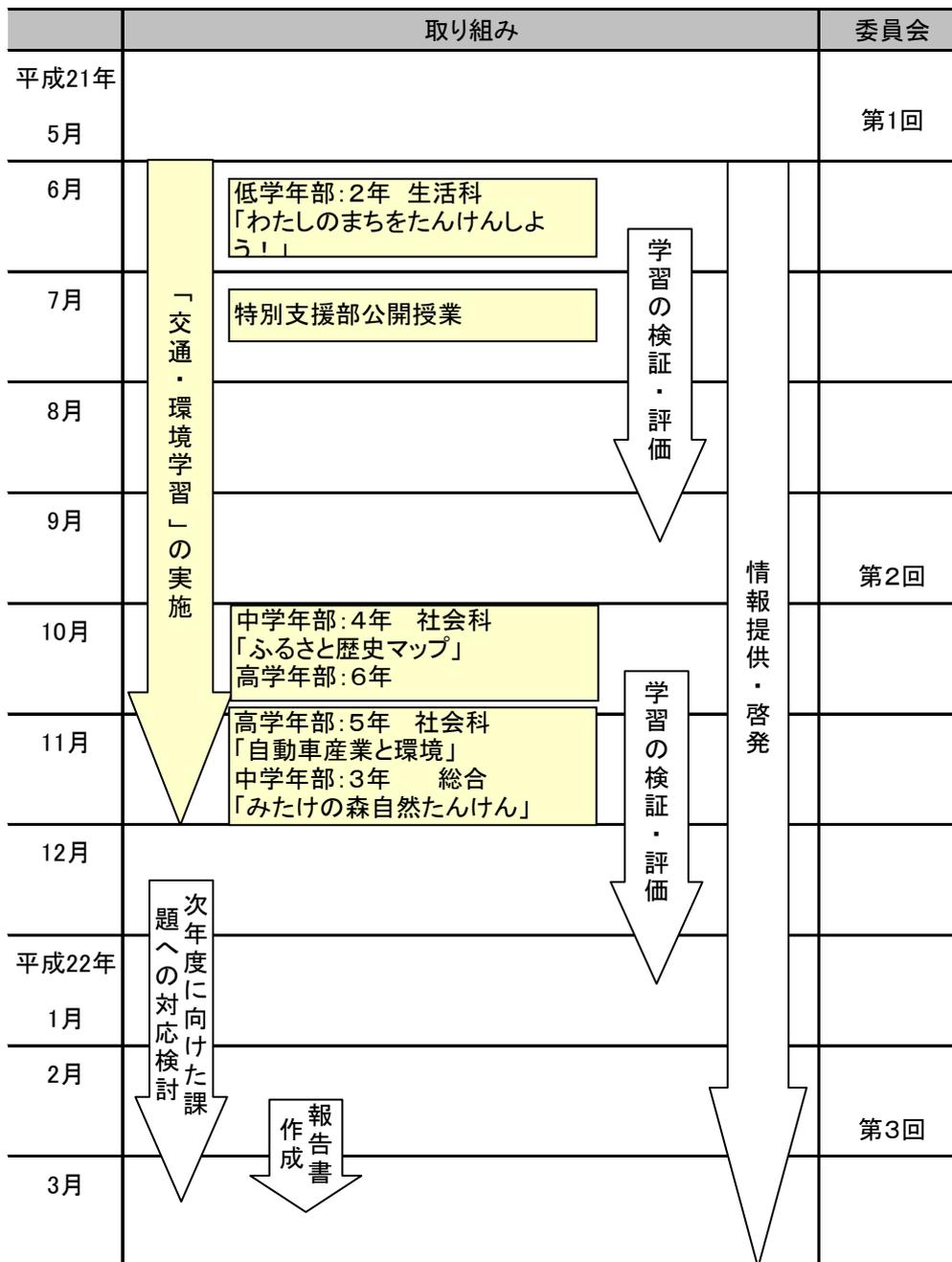
##### ③御嵩町公共媒体での情報発信

- ・ 町ホームページ、広報紙誌などで「交通・環境学習」の取り組みを積極的に広報して、広く町民に知っていただく努力をする。

##### ① 次年度に向けた課題への対応

本年度の「交通・環境学習」実施結果と事業の検証・評価を踏まえて、問題点を整理して課題を抽出する。また、平成 21 年度取り組みに向けて、課題への対応を検討するとともに、平成 21 年度事業実施計画概要を策定する。

(5) 事業の全体スケジュール



## 2. 「交通・環境学習」の実施

### 2.1 「交通・環境学習」検討概要

#### (1)基本的な枠組み

本年度は、前記図 1.3.1 に示すように、御嵩小学校において本格的に「交通・環境学習」を実施し、検証・評価を行って、次年度の町内全校での実施に向けた課題への対応を行うこととした。

また、御嵩小学校が主体となって、次のような枠組みで「交通・環境学習」を実施し、委員会（御嵩町）が、関連する情報提供、ツールの提供支援、出前講座など人的支援などの支援を行うこととした（図 2.1.1）。

- 1).対象学年：全学年で取り組む
- 2).授業実施：研究会を実施する
- 3).検討項目：
  - ①単元、カリキュラム、教材の開発
  - ②授業実施
  - ③情報発信・生活行動の実践

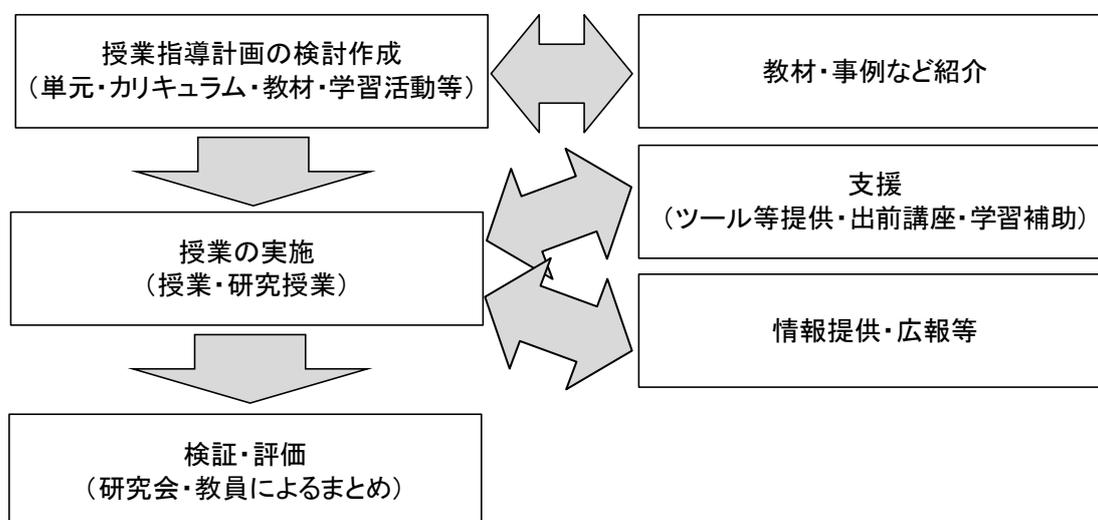


図 2.1.1 授業実施の基本的な進め方

#### (2)検討項目

ここで、検討項目の内容は、次のとおりである。

##### ① 単元、カリキュラム、教材の開発

- ・ 各学年において、交通・環境教育に関する問題解決学習が行えるような「総合的な学習」、「社会科」「生活科」の単元、カリキュラム、教材を開発す

る。

- ・ 開発に際しては、原則として学習指導要領における各教科課程における学習を基本として、これまでに開発されている「交通・環境学習」教材や実施事例を参考とした。参考にした教材等は、巻末資料に示すとおりである。

→取り組みテーマは、各学年で設定。

## ② 授業実施

- ・ 授業での指導を通して、1つの取り組みに対して試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成功感を味わわせるための手立てを考える。

→問題解決学習を成立させるプロセス及び学習スタイルの指導。

## ③ 情報発信・生活行動の実践

- ・ 調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと話し、伝えることができる子供をめざし、そのための手立てを考える。

→発表会、ポスターセッション、標語提言など。

## (3) 授業の全体像

各学年で検討して設定した授業：単元と枠組みは、表 2.1.1 に示すとおりである。

表 2.1.1 授業の全体像

学年	クラス・児童数	学習教科	単元名	授業実施時期	研究公開授業
1年	3クラス95名	生活	しぜんとあそぼう！	1学期～2学期	部内研究会
2年	4クラス111名	生活	どきどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～	1学期～2学期	全校研究会
3年	3クラス99名	総合	見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん	1学期～2学期	部内研究会
4年	3クラス112名	社会科	きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～	2学期	全校研究会
5年	3クラス119名	社会科	自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～	2学期	全校研究会
6年	3クラス97名	総合	日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～	2学期～3学期	部内研究会
全校児童数：633名					

## 2.2 授業実施計画

### (1) 授業実施計画

授業実施計画は、「交通・環境学習」を通して学習の基本的な目標である「思考力・判断力・表現力を育てる学習」を創っていくことを念頭に、単元のテーマに基づいて各学年の教員が主体的にカリキュラムを構成し、指導計画を構成していくこととした。

また、委員会としては、授業実施計画を検討する教員の求めに応じて、次のような支援を行った。

- ・教材事例、実践事例の紹介(巻末資料参照)
- ・出前講座、ゲストティーチャーの紹介
- ・必要なツールの調達、準備
- ・専門的知見、情報の提供 など

### (2) 各学年の取り組み計画概要

各学年で「交通・環境学習」を実施するに際しての取り組み計画は、前記の枠組みに基づいて検討していくこととするが、その方向性について、3年生を例とした検討の方向性を以下に示す。

#### ①めざす子どもの姿、研究の重点

**☆御嵩町の自然や環境に興味関心を持つことができる。**  
**☆初めての「総合的な学習」への取り組み方を身につける。**  
 課題意識を持つ→課題をつくる→調査・検証方法を考える→継続的な取り組み、調査活動・調べ学習→結果の考察→考察したことを他へ伝える→自分たちの生活や行動の見直し・実践  
**☆調べたことや、考察したことを、まとめ人前でもしっかりと話し、伝えることができる。**

#### ②研究内容について

研究内容	今年度の具体的活動
〈研究内容1〉 <b>交通・環境問題を視点とした「総合的な学習」「社会科」「生活科」における学習プロデュースのあり方</b> ○単元構想 ○カリキュラム開発	<b>○各学年において、交通・環境教育に関する問題解決学習が行えるような「総合的な学習」、「社会科」「生活科」の単元、教材を開発する。</b>
<b>☆取り組みそうな内容・取り組みたい内容</b> ・みたけの森しぜんたんけん→御嵩町には貴重な自然がまだまだ残っており、そのその自然を保全しようとする人々がいることを知る。 ・国道21号線の交通量調べからわかること→テクノみたけの工業団地、マグロード、との関連から、産業と交通の問題点に気づく。	

<p>〈研究内容2〉  <b>問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方</b>  ○問題解決学習を成立させるためのプロセス指導  ○問題解決学習を成立させるための学習スタイル指導</p>	<p>○1つの取り組みに対して、試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成功感を味わわせる。そのための手立てを考える。</p>
<p><b>☆取り組んでみたい実践</b>  ・初めての「総合的な学習」への取り組み方を身につけさせる。  課題意識を持つ→課題をつくる→調査・検証方法を考える→継続的な取り組み、調査活動・調べ学習→結果の考察→考察したことを他へ伝える→自分たちの生活や行動の見直し・実践</p>	
<p>〈研究内容3〉  <b>情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方</b>  ○情報発信のあり方  ○生活化のあり方</p>	<p>○調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと話し、伝えることができる子供をめざす。そのための手立てを考える。</p>
<p><b>☆取り組んでみたい実践</b>  ・3年生なりにできる発表会を実施する。  ・ポスターセッションを実施する。どの子ども役割をもち、人前で話す機会を作る。子ども同士で聞きあい、わかりやすい話し方を考えさせ、改善させる。</p>	

### (3)各学年の授業実施内容

各学年における単元指導計画を含む学習指導案は、資料として巻末に掲載する。

## 2.3 事業実施内容

実施した授業の概要を表 2.3.1～表 2.3.6 に示す。

表 2.3.1 1 年生：「しぜんとあそぼう！」授業の概要

単元名	しぜんとあそぼう！
学習教科	生活科
学習のねらい	みたけ町の自然とかかわるなかで、季節ごとの自然の変化に気付き、自然を身近に感じ、自然とのかかわりの楽しさを実感する。
学習の構成	1.「みたけの森/文化の森」たんけん(春・秋) ○春のみたけの森たんけん ○秋のみたけの森たんけん 2.「たんけんマップ」作成 ◆「たんけんマップ」のワークスペースへの掲示
目標とする子どもの姿	・みたけ町の自然とのかかわりの中で季節の変化に気づく子 ・自然を利用して積極的に何かをつくったり、遊んだりする子 ・絵や言葉で自分の考えを表現できる子

表 2.3.2 2年：「どきどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～

単元名	どきどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～
学習教科	生活科
学習のねらい	子どもたちは学校や家庭を中心とした生活から、友だちや地域の人々、身の回りの環境などのかかわりを通して、自分たちの地域へと生活の場を広げる。本単元では、身近な地域に出かけることで、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに親しみや愛着をもち、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりすることを期待する。 とくに、まち探検の活動を通して、交通空間としての“歩く”ことの価値を実感し、人々と適切に接する力や安全に生活する力を身に付けさせたい。
学習の構成 (15コマ)	<p>①まちのひみつをおしえあう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「まちのひみつ」を見つけに行く計画をしよう</li> <li>2.「まちのひみつ」を見つけよう ○「まちのひみつ」たんけん</li> <li>3.見つけた「まちのひみつ」をカードにかこう</li> <li>4.見つけた「まちのひみつ」を教えあおう</li> </ol> <p>②たんけんのけいかくをたてよう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.お店の「まちのひみつ」を見つける探検計画をしよう</li> <li>2.まちたんけんの約束を考えよう</li> <li>2.お店の人にインタビューをする練習をしよう</li> </ol> <p>③まちをたんけんしよう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自分が知りたい「まちのひみつ」を見つけに行こう ○自分が知りたい「まちのひみつ」たんけん</li> </ol> <p>④見つけたことを教えあおう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「まちのひみつ」発表会の準備をしよう</li> <li>2.「まちのひみつ」発表会をして、まち博士になろう</li> </ol> <p>◆「まちのひみつ」発表会</p>
目標とする 子どもの姿	・みたけ町の人や場所、自然にかかわる楽しさを味わうとともに、それらを通して気づいたことや楽しかったことについて、自分なりの方法で表現することができる。



写真 2.3.1 授業風景：まちのひみつを教えあう



歩道を歩く



御嵩駅構内



御嵩駅案内係りに質問



御嵩駅構内

写真 2.3.2 まちの探検風景

表 2.3.3 3年：見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん

単元名	見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん
学習教科	総合的な学習の時間
学習のねらい	<p>自分たちの住んでいる御嵩町には自然豊かな「みたけの森」があることを知り、みたけの森の保全を継続的に行ってみえる地域の自然名人さんたちとみたけの森自然探検をすることにより、人々の願いを知るとともに、ササユリをはじめとして貴重な植物があることを知る。</p> <p>また、自分たちだけでみたけの森自然探検をして、貴重なみたけの森の自然を守りたいという心情を持つとともに、みたけの森の自然を守ることが環境を守ることに繋がっていることをポスターや新聞などで表現させたい。</p>
学習の構成 (16コマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.春のみたけの森自然たんけんの計画を立てよう</li> <li>2.自然名人さんと一緒に、みたけの森をたんけんしよう ○みたけの森たんけん ✓外部講師:「みたけの森保全グループ」吉川政夫代表、「御嵩町環境マイスター」田中晃さん</li> <li>3.みたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう</li> <li>4.お世話になった自然名人さんたちにお手紙を書こう</li> <li>5.秋のみたけの森自然たんけんの計画を立てよう</li> <li>6.秋のみたけの森をたんけんしよう ○秋のみたけの森たんけん</li> <li>7.秋のみたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう</li> <li>8.自然を大切にすることと地球の環境を良くすることが繋がっていることを知ろう ✓出前講座:「岐阜県博物館」千藤克彦課長補佐(岐阜県地球温暖化防止活動推進センター)</li> <li>9.みたけの森自然たんけんで分かったことを発表してみんなに知らせよう ◆新聞・作文・ポスターなど発表会</li> </ol>
目標とする 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御嵩町の自然や環境に興味と関心を持つことができる。</li> <li>・初めての「総合的な学習」への取り組み方を身につける。 問題意識を持つ→課題をつくる→調査・検証方法を考える→継続的な取り組み、調査活動・調べ学習 →結果の考察→考察したことを他へ伝える→自分たちの生活や行動の見直し・実践</li> <li>・調べたことや考察したことをまとめ、人前でもしっかりと話し合えることができる。</li> </ul>



写真 2.3.3 巨大地図を活用した「自分の家見つけ」

表 2.3.4 4年：きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～

単元名	きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～
学習教科	社会科
学習のねらい	<p>わたしたちの暮らしの中に当たり前存在する名鉄広見線に着目し、鉄道が御嵩に敷かれるまでの人々の願いや努力を学習することで、わたしたちの今の暮らしは先人達の強い願いと多くの努力によって発展してきた結果であることを知り、地域社会に対する誇りや愛情を育む。また、鉄道が敷かれた当時と今の変化の様子を捉え、名鉄広見線がなくなってしまうのかを考える。そして、自分たちの考えをポスター、新聞として制作し、駅や商店街に貼ることで地域へ発信させていく。</p> <p>ここで、子どもたちにとっては、普段鉄道を利用しないことも多く、あまり身近な存在とは言えないため、鉄道を身近に感じるために、名鉄広見線に乗せる活動を取り入れ、どんな人が乗っているか調べさせたり、駅で働く人の様子を観察させたり、車窓からの景色を見せたりすることで、子どもたちに新しい発見をさせ、学習意欲を高めたい。</p>
学習の構成 (14コマ)	<p>①第一次</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>御嵩から電車がなくなっていいのだろうか？</li> <li>みたけ駅から電車に乗って新しい発見をしよう ○名鉄広見線体験乗車</li> <li>電車に乗って分かったことや不思議に思ったことなどを交流しよう</li> </ol> <p>②第二次</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>鉄道はどのように敷かれたのだろうか</li> <li>どうして鉄道ができる話を断ったのだろうか</li> <li>どうしてここまでして鉄道を敷いたのだろうか ✓「名鉄広見線の話」中島勝國先生(元小中学校校長)</li> <li>鉄道を敷いたことで、人々の生活はどう変わったのだろうか</li> </ol> <p>③第三次</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>鉄道を利用している人や駅員さんは、今どんな思いをしているのだろうか？ ○みたけ駅出口調査(利用者ヒアリング)、駅員さんヒアリング</li> <li>御嵩町としては、今後どうしていきたいのだろうか？</li> <li>わたしたちには何ができるかを考えて発信しよう ◆展示:「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～</li> </ol>
目標とする 子どもの姿	<p>鉄道敷設に懸ける先人の願いや努力を知り、利用客や鉄道会社の人の話を聞くことで様々な立場の人がいることに気付き、広見線や電車利用という視点で自分たちには何ができるか考え、それを他者へ発信することができる。</p>



写真 2.3.4 中島勝國先生の話聞く



写真 2.3.5 展示：「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～

表 2.3.5 5年：自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～

単元名	自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～
学習教科	社会科
学習のねらい	<p>自動車がつくられ販売するまでの過程を学習する中で日本の工業生産と国民生活との関わりについて考える。とくに、地域での工業生産の様子を調べることを通して、身近な自動車がどのように作られているのか、もの作りにおける人々の工夫や努力を理解し、工業生産と国民生活との関わりを身近に捉えさせるように学習する。</p> <p>また、自動車に対する子供たちの「調べてみたい、知りたい」ということから課題設定をし、実際に見学に行き見たり、聞いたりすることで興味・関心を持たせ、最後まで意欲的に学習できるようにしていく。そして、地域の関連部品工場を取り上げ、生産過程を学習することを通して、日本の工業生産を代表する自動車産業は、関連部品工場やそれに関わる人々の工夫や努力によって支えられていることが理解できると考える。</p> <p>最後に、地域の環境の問題に対して、自分たちが実践できる環境にやさしい暮らしを考え、実践計画を立てて情報発信をする。</p>
学習の構成 (社会科:16 コマ(1~11) (総合的な学 習:7コマ (12~17)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.わたしたちの生活は、どのような工業製品に支えられているのだろう</li> <li>2.アンケートをもとに、気づいたことを交流しよう</li> <li>3.自動車部品組み立て工場の見学計画を立てよう</li> <li>4.自動車は、どのように組み立てられているのだろうか？ ○トヨタ自動車工場見学</li> <li>5.どうして間違いもなく注文した車がつくられるのだろう</li> <li>6.どうしてトヨタは3万点もの部品があるのに、一人ひとりの希望に合わせて速く正確に車をつくることができるのだろう</li> <li>7.完成した自動車は、どのようにして消費者のもとに届くのだろう</li> <li>8.どうして日本の自動車工場が海外に進出するようになったのだろう</li> <li>9.環境に良いクルマと普通の車はどのような違いがあるのだろうか？ ○「クルマ大集合」、事前説明会「燃料電池自動車を体験しよう」</li> <li>10.ハイブリッドカー誕生には、どのような工夫や努力があったのだろう</li> <li>11.御嵩町の自動車工場では、どのような工夫や努力があるのだろう</li> <li>12.御嵩町では、どんな環境問題が起きているのだろう</li> <li>13.環境にやさしい暮らしの計画を立てよう</li> <li>14.家庭で実践する計画を立てよう</li> <li>15.撮影会の準備をしよう</li> <li>16.エコ番組を制作しよう</li> <li>17.ビデオ撮影会を開催しよう</li> </ol> <p>◆ビデオ撮影会</p>
目標とする 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御嵩町の歴史や特色に興味関心を持ち、環境への取り組みを調べることができる。</li> <li>・今までの学習の仕方を活かして、必要な資料を選別し、それらを関連させて自分の考えを持つことができる。</li> <li>・調べたことや考察したことを図や表などに分かりやすくまとめ、それらを提示しながらはつきり話し、伝えることができる。</li> </ul>



燃料電池車試乗



電気自動車・天然ガス車・福祉自動車の説明



排気ガス調べ：NO<sub>x</sub>



排気ガス調べ：PM

写真 2.3.6 「クルマ大集合」

表 2.3.6 6年：日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～

単元名	日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～
学習教科	総合的な学習の時間
学習のねらい	<p>明治村を見学したことをきっかけに、交通機関に目を向け、私たちの生活との関わりについて意識を高めたい。六年生の「総合的な学習の時間」の出口の学習であり、導入での「御嵩の歴史の扉を開こう ～御嵩から日本へ～」に続く学習として位置付ける。</p> <p>明治村見学で見たり、聞いたり、体験・実感したことを大切にしながら、江戸・明治・現在の3つの時代のそれぞれの交通機関(道や乗り物)について班ごとにテーマを持って調べ学習を行い、私たちの町にも目を向けて、時代ごとの町の交通について考えることで、今の御嵩町の交通に関わる課題を捉える。</p> <p>各班の発表を交流することで、環境問題や未来の交通機関などに対する考えを持つことで、3学期の議会見学の時に「御嵩町のこれからのために、6年3組が考えること」という議案書を提案したい。</p>
学習の構成 (23コマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.「明治村」見学計画を立てよう</li> <li>2.「明治村」見学体験             <ul style="list-style-type: none"> <li>○「明治村」見学会</li> </ul> </li> <li>3.江戸、明治、現在の交通を調べよう</li> <li>4.発表会(ポスターセッション)を開催しよう             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆発表会(ポスターセッション)</li> </ul> </li> </ol>
目標とする 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習を生かして、自分たちのテーマに沿って必要な資料を選別し、それらを関連させてまとめることができる。</li> <li>・調べたことを、わかりやすくまとめ、それらを提示しながらわかりやすく仲間に伝えることができる。</li> <li>・自分たちが住む御嵩町にもっともっと関心を持ち、もっと住みやすい、よりよい御嵩町にするために具体的な考え、意見を持つことができる。</li> </ul>

### 3. 学習の検証・評価

#### 3.1 授業の検証・評価

授業の検証・評価は、「交通・環境学習」をとおして思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造していくという主題に基づき、教員及び教育委員会ほかの皆様が参加する研究会（全校・部内）を通しての意見交換を踏まえてとりまとめた。

また、評価は、表 3.1.1 に示す視点と目標を設定して整理している。

各学年の担当教員の皆様方が取りまとめた検証・評価と課題を表 3.1.2～表 3.1.7 に整理する。

表 3.1.1 評価の視点

評価の視点	目標
交通環境問題を視点とした社会科、生活科、総合的な学習における学習プロデュースのあり方	交通、環境教育に関する問題解決学習が行えるような「社会科」「生活科」「総合的な学習」の単元、教材を開発する。
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	1つの取り組みに対して、試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成就感を味わわせる。そのための手立てを考える。
情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方	調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと話し、伝えることができる子をめざす。そのための手立てを考える。

表 3.1.2 1年：「しぜんとあそぼう！」学習のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みたけの森」を軸にして單元ごとにつながりをもたせたことで、児童が季節を楽しみながら学習することができた。</li> <li>・見学体験学習を文化の森に変更したことで、自然に対する視野が広がった。</li> <li>・児童の知的な気づきをさらに生み出すために、春の「みたけの森」探検の前に教師が細かい年間指導計画を立てることが必要であった。</li> </ul>
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で身近な秋を探索した後に「みたけの森」や、文化の森で学習したことで、自然を比較したり、考えを深めたりすることができた。</li> <li>・探検した内容をもとにマップを作成して交流した結果、休み時間に学校の様々な場所へ、休日には「みたけの森」へ交流の中で気付いたことや驚いたことを自ら確認しに行く子が多かった。</li> <li>・マップを作成し、ワークスペースに掲示したことで、他学級のマップを休み時間に見る児童が多く、学習内容の振り返りや、他学級との交流もすることができた。</li> </ul>
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五感をつかって観察させたことで、文章を書くときや、他教科で観察をするときなどにもそれを生かして学習することができた。</li> <li>・話形をマニュアル化して黒板や教室の側面に掲示しておくことで、すらすら話すことができる子が増えた。</li> <li>・1学期から話し方を「はじめ」「なか」「おわり」の形にしていたことで、算数や国語など他教科でもその様な話し方をする児童が多かった。</li> </ul>
総括・今後の課題	

表 3.1.3 2年:「きょう土に伝わる願い～ぼくらの電車いきいきプラン～」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期「どきどき わくわく まちたんけん」の単元を通して御嵩の町中の道の様子や、自然について学ぶことができた。</li> <li>・「わたしのまちをたんけんしよう」では、道路の様子や歩き方、人との関わりに視点をおき、探検し、「生きものをかおう」では自然に視点をおき探検する。</li> <li>・2学期は「わたしのまち大すき」と関わらせ、ふるさとたんけんでまちの人との交流をしたり、道中の交通環境を調べる活動を仕組む予定であったが今年度はふるさとたんけんが中止になったためできなかった。</li> </ul>
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちたんけんでは、4つの視点を持たせ、みんな一緒に歩き、全員に視点を確認させながら探検することで、もっと詳しく知りたいという興味関心を持たせるとともに、見つけてきたことに対して、活発な交流ができた。</li> <li>・町中の交通環境に目を向けることで、グループ探検では、安全に気を付けて探検しようとする姿が見られた。</li> <li>・全体で歩いた道なので、グループ探検では自信を持って学習に取り組むことができた。</li> </ul>
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ探検の前にお店の方の役の子と児童の役の子と役割分担して、話す練習をすることで、探検中ていねいな言葉で話すことができた。</li> <li>・まちたんけんの後に、探検で見つけたことを他の人に伝える学習をした。発表の方法をグループで選ばせることで、紙芝居、劇、クイズなどいろいろな方法を考えて発表することができた。</li> <li>・参観日に発表会を行ったことで、家庭にも調べたことを広めることができた。実際に、休日に町中へ家族で出かけた家庭もあった</li> </ul>
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元としては、2年生の発達段階にあっているよい。</li> <li>○まちたんけんは、1学期に2回行うとよい。(クラス全員/グループ)</li> <li>○5月下旬から6月中旬にかけて取り組むとゆとりを持って探検を仕組める。</li> <li>○7月上旬に「生きものをかおう」の学習ができるとよい。(天候不順の時に対応できるように)長岡の田んぼ横でザリガニとりをしている。</li> <li>○2学期は時数確保が難しいが、ふるさとたんけんの代わりに・電車で顔戸地区へ行ってみよう。(1年生、2年生で御嵩小の校区のいろいろなどころへ行く。公共の乗り物に乗るときのマナーを知る。)・駅の西側を探検しよう。(お店が多い東側と比較する。中公民館へ行く。)などの探検を仕組むと1学期のまち探検からさらに広げることができる。</li> </ul>

表 3.1.4 3年：「見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みたけの森探検を春、秋と2回探検して、環境を考えることにつなげるという1年間、継続する単元にできた。</li> <li>・2回探検したことで、春の様子と秋の様子を比べることができ、みたけの森の自然の豊かさをさらに感じる事ができた。そして、自然のすばらしさを実感し、みたけの森を大切にしようという気持ちを持つことにつながった。</li> <li>・環境と自然のつながりをどんな方にどのように話していただくか考慮することが必要。内容が難しいので、3年生の子どもたちに理解できるような内容にしたい</li> </ul>
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みたけの森を春と秋、2回探検したことがよかった。</li> <li>・春は、ボランティアの自然名人さんと一緒に歩き、みたけの森の貴重な植物についていろいろと教えていただくことによって、自分たちの身近に貴重な自然が残っていること、そのすばらしさを感じる事ができた。秋は、自分たちだけで歩き、春の様子と比べながら違いを自分たちで見つけていくことによって秋には秋の良さがあり、春と様子が違うことから自然が生きていることに気づくという流れがよかった。</li> </ul>
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を守ることが環境をよくすることにつながる学習をしてから、学習してわかったことや感じたことを他の人に伝える活動をした。新聞にまとめたり、ポスターをかいいたり、作文をかいいたりした。どんな方法にするか自分で選ばせたところ、今年の子は、ポスターが多かった。どんな内容のポスターをかいいたか、意図をみんなの前で話す活動をした。</li> <li>例)・みたけの森を大切にしよう！ ・ササユリを大切にしよう！</li> <li>・みたけの森へ行ってみよう！ ・絶滅危惧種(ギフチョウ)を守ろう！</li> <li>・二酸化炭素を減らそう！</li> </ul>
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元としては、3年生の発達段階にあっている。</li> <li>○みたけの森は、2回、探検する。</li> <li>○春のみたけの森探検は、ササユリの開花時期に合わせる。(6月上旬)みたけの森保全団体のボランティアさんをお願いする。</li> <li>○秋のみたけの森探検は、9月下旬から10月上旬にする。早くしないと、下草が刈られて整備されてしまう。</li> <li>○自然を守ることと環境をよくすることがつながる学習は、担任が行うこともできるが、3年生の総合的な学習のテーマである名人さんとのふれあいの一環として、どなたか講師を依頼する。ギフチョウとの関連から話していただくなら、自然名人さんからはなしていただくのもよい。今年度は岐阜県博物館の千藤先生にお願いした。</li> </ul>

表 3.1.5 4年：「きょう土に伝わる願い～ぼくらの電車いきいきプラン～」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロデュースのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼくらの電車いきいきプラン」は、自分たちの身近に感じられる教材となった。名鉄電車に乗ったことがない子どもたちも、乗車体験ができ、名鉄廃線問題を考えるきっかけとなった。その点において、新しい単元を開発したことに意味はあった。</li> <li>・誰か一人に焦点を当てて学習するなど、鉄道敷設に懸ける人々の強い願いを伝えるような単元のながれにしたい</li> </ul>
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識をもち、見学や体験、調査することで意欲的に活動することができた。</li> <li>・見通しをもった計画だったので、資料をもとに意欲的に読み取り考察したり、まとめたりすることができた。</li> <li>・資料集めは大変だが、ねらいに迫るような資料を提示していくことが大切である。</li> </ul>
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50周年記念式典でポスターを掲示することができ、地域へアピールすることができた。ポスター作り、新聞作りを出口としていたため、単元を通して自分の考えを明確にもつことへとつながった。</li> <li>・家庭でも話題に出したり、家族で電車に乗ったりした話を聞くことができた。</li> </ul>
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降も、本年度のテーマを継続することが望まれる。「交通・環境学習」を視点として、今年度取り組んだことをさらに深めていくことになると思われる。</li> </ul>

表 3.1.6 5年：「自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の「自動車を作る工業」から環境教育に関する問題解決学習を行うことができた。御嵩町にある自動車部品工場の「盟和産業」を取りあげることで環境問題を児童の身近なものと考えることができた。</li> <li>・「クルマ大集合」「事前説明会」等の出前授業により、児童が意欲的に環境について考えるきっかけになった。</li> <li>・社会見学で行ったトヨタ工場の中にも環境を考えた工夫が数多くあり、児童は環境に対する意識を高めることができた。</li> </ul>
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が問題を解決できるように1時間1時間資料を準備することができた。資料は、写真や自動車部品の実物を使ったり、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等を準備したりして資料読み取りの力をつけさせることができた。</li> <li>・盟和産業について学習したときには、実際に長野工場の研究推進室で働く福岡さんに来ていただき、実際に工場で働く人の声を聞くことができた。</li> <li>・クルマ大集合で集まった電気自動車、燃料電池車、天然ガス車のパンフレットをいただき、担当者の方から説明をしていただいたことで、それぞれのクルマの特徴を学習することができた。</li> <li>・クルマ大集合の事前学習会では、燃料電池車のミニカーを持ってきていただき、実際に水素と酸素を使って走行する実験を学習することができた。また、走行する燃料電池車に体験乗車し、乗り心地等を確かめることができた。</li> </ul>
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の学習「工夫して発信しよう」と関連させて全校に発信している。ポスターや新聞を各学年のワークに掲示し環境についての取り組みを呼びかけている。</li> <li>・だから読み、付け足し読み、まとめ読み、前の資料読みの4つの資料読み取りの方法を指導したとにより、資料から分かった事実と自分の考えを発表することができた。また、仲間の意見と比べたり、付け足したりして発表することができた。</li> </ul>
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御嵩町にある盟和産業とのつながりを大切に、盟和産業に見学に行けるとよい。 盟和産業・・・67-0888</li> <li>・4年生で学習した水、ゴミの学習とさらに関連付けできるとよい。</li> <li>・御嵩町には、環境に配慮している自動車工場が数多くあるので盟和産業だけでなくそれらも教材科することができる。</li> </ul>

表 3.1.7 6年：「日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～」  
のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロデュースのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の内容にはふれあいバスの利用者が年間15000人でその8割がお年寄りといった普段の生活では知ることのできないことがあり、学校の資料だけでなく、色々な収集の仕方を経験していることがわかった。</li> <li>・ 児童の発表する姿は、相手を意識できており質問に対しても堂々と、受け答えができていた。</li> <li>・ 自ら調べたいと思って調べ、自分たちなりにたどり着いた答えだったので、発表の姿に意欲や自信があふれていた。</li> <li>・ 「なぜお年寄りの利用が多いのか。」「交通手段がバスしかない。」といった交通と人々のくらしとのかかわりについての意見交流もされていた。</li> <li>・ テーマが大きすぎて、本当に御嵩町についての理解や意識を高めたとは言い難かった。もう少し各班の発表を整理できなかったらどうか。</li> <li>・ テーマをもっと住みよい日本なのか、御嵩町なのかはつきりさせるとよかった。</li> </ul>
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポスターセッションの本来の意味は発表する人と聞く人がとても近い位置で気楽に質疑できることにある。説明をすべて終わってから質問を受けるといった型にこだわる必要はなかった。</li> <li>・ 発表の時には、聴く側の人数を確保したい。本時については少なかったのではないか。</li> </ul>
情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方	
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ このテーマで名鉄広見線やふれあいバスの内容を深めて議会に提案していくことは、政治的な要素が強いので、児童にはやや難しい。文化財のある誇りある御嵩や、住みやすい町にするために、という出口にしたほうが単元の組みたてがしやすいのではないか。</li> <li>・ 児童の「住みよい御嵩町」のイメージが、御嵩町に飛行場があればいい、新幹線を引けばいいといった現実離れたものになりがちだったのは、御嵩に対する基本的な理解が薄かったからだと考える。本年度は初年度なので児童に積み重ねがない。4年生の社会科からの積み上げが非常に大事である。</li> </ul>

## 3.2 まとめと課題整理

### (1) まとめ

本年度の御嵩小学校における「交通・環境学習」を総括的にまとめると、次のとおりである。

- ・全学年が「交通・環境学習」に取り組むという方針で児童の思考力・判断力・表現力を育む学習を創造していこうという意欲的な事業であり、賞賛すべき取り組みであったといえる。
- ・とくに、御嵩町固有の資産や風土を踏まえて各学年の教科課程に基づいた単元と教材を開発できたことは大きな成果である。また、交通・環境というフィールドを通して問題解決学習を図るという目標に対しても、子どもたちが意欲的に学習することができるとともに、今後の課題も具体的に整理することができた。
- ・学習に際しては、積極的に実際のフィールドに触れたり、場所や人とのコミュニケーションを重視することで、問題解決学習の成立という視点でも大きな成果を得ることができた。また、出前講座やゲストティーチャーは、児童にとって大きな刺激となり、その資産を蓄積することができた。
- ・調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと話し、伝えるという目標に対しては、多様な手法で情報発信をすることができ、自分たちのメッセージが伝わる喜びを実感することができた。

### (2) 課題整理

本年度の取り組みは、実にすばらしいものであったと思われるが、取り組みの目標に基づいたいくつかの課題と、今後の継続的な取り組みや他校への広がりといった視点からの課題が指摘される。

- ・本年度の意欲的な教材開発や全校での取り組みは、ひとえに教員の皆様の熱意と努力に起因するものである。今後の授業時間の確保や、地域・学校・学年固有の背景などを勘案すると、教員への負担が相当程度存在することは否めない。教員の負担軽減とそれに対する支援のあり方については、さらに検討が必要であると思われる。
- ・「交通・環境学習」の教材は、ある程度の蓄積があるものの、本年度の事前の計画や準備状況などを勘案すると、地域の風土などの実態、学校、職員、児童の実態を考慮して、教員がカスタマイズしていかなければならない。この場合の取り組み事例の蓄積や参照方法などの環境を整備することも大きな課題であろう。
- ・本年度取り組んだ単元/教材についても、実践の結果として指摘される資産や課題が数多くある。これらの情報を的確に、しかも着実に伝えることができるしくみの構築が望まれる。

#### 4. 情報提供・広報啓発の取り組み

##### 4.1 情報提供・広報啓発の取り組み計画

「交通・環境学習」を、継続・発展させていくためには、実際の学習現場での取り組みを関係者に配信して情報を共有する事が不可欠である。とくに、平成22年度から取り組む予定の町内各小学校の教員には、本年度の授業内容を知っていただかなければならないし、御嵩小学校での取り組みを継続していくためには、小学校内の他の教員、保護者、そして支援する関係者に情報を提供しなければならない。

このため、本年度は、表4.1.1に示すような情報提供・広報啓発の展開を試みることにした。

なお、これらの情報提供・啓発活動には、関係者の多大なる協力が必要であり、関係者への依頼、協議を行ったうえで、可能な範囲で実施することとした。

表 4.1.1 情報提供・広報啓発の取り組み計画

ねらい	方法	対象	媒体・具体の手法	備考
理解の推進 と普及・啓発	研究公開授業	小学校教員	公開授業案内、公開授業と研究会	
	報告書配布	関係機関・団体・町内小学校	報告書概要編制作・配布	
	「標語・提言」掲示板	町民	町内主要地点に「標語・提言」掲示板を設置して取り組みをアピール	
	広報誌紙	保護者	「御嵩小広報」(随時)	
		町民	広報紙「ほっとみたけ」(月刊)	総務部企画課と調整
情報提供・広報	御嵩町ホームページ・ニュース	町民・一般市民	実施結果ニュース、(ポータルサイト)	総務部企画課と調整
	御嵩町教育センターホームページ・ニュース	町民・一般市民	実施結果ニュース(御嵩町ホームページとリンク)	
	マスコミ	町民・一般市民	新聞・テレビ・ラジオ放送等による報道依頼	
	学会・イベント等での報告	関係者	学会・イベントなどでの報告	

## 4.2 本年度に実施した情報提供・広報啓発の取り組み

### 4.2.1 情報提供・広報啓発の取り組みの全体像

本年度に実施した情報提供・広報啓発の取り組みを、表 4.2.1 に示す。

御嵩町教育センターホームページでの情報提供を実施することができなかったものの、計画した情報提供・広報啓発の取り組みはほぼ実現することができた。

なかでも、名鉄のご協力で実現した「ぼくらのいきいきプラン」～御嵩駅美術館～は、広く町民の皆様にご覧いただき、取り組みを啓発するという意味では、大きな成果であるといえる。

表 4.2.1 情報提供・広報啓発の取り組み概要

ねらい	方法	実施概要	備考
理解の推進 と普及・啓発	研究公開授業	・全校研究会:2年、4年、5年 ・部内研究会:3年、6年	教員通信「はなみずき(2009.6)」アナウンス
	報告書配布	報告書概要編制作・配布(3月中旬に配布予定)	平成20年度の報告書は配布済み。
	「標語・提言」掲示板	町内主要地点に「標語・提言」掲示板を設置して取り組みをアピール(3/15の週に掲示予定)	
	広報誌紙	「御嵩小広報」(No.1546, No.1550の2回発行)	保護者通信
		広報紙「ほっとみたけ」(1月号、3月号)	総務部企画課と調整
展示	「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館展示～(H22年3月)	名鉄の協力	
情報提供・広報	御嵩町ホームページ・ニュース	ニュース(TOP news:御嵩駅美術館展示のニュース)	総務部企画課と調整
	御嵩町教育センターホームページ・ニュース		
	マスコミ	・新聞報道:クルマ大集合、「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館展示～ ・CATV:クルマ大集合	岐阜新聞、中日新聞 ケーブルテレビ可児
	学会・イベント等での報告	「第1回土木と学校教育フォーラム」 土木学会教育企画・人材育成委員会「土木と学校教育会議」検討小委員会(平成21年8月)	

#### 4.2.2 本年度に実施した情報提供・広報啓発の取り組み

##### (1) 研究公開授業の実施・案内

- ・ 研究公開授業の実施：町内の小学校に案内して全校研究会には多くの教員が参加した。
- ・ 小学校教員への情報提供：教員通信「はなみずき」

##### (2) 広報紙への掲載：「御嵩小広報」

- ・ 御嵩小学校保護者対象の広報紙への情報提供  
「御嵩小広報」No.1546(2009.05.26 発行)：交通・環境学習支援事業の紹介  
「御嵩小広報」No.1550(2009.06.23 発行)：特大地図パネルが登場

##### (3) 御嵩町広報紙「ほっとみたけ」への記事掲載

- ・ 御嵩町広報紙「ほっとみたけ」に、取り組みを報告する記事を2回掲載した。  
1月号：シリーズ名鉄広見線に乗ろう！「御嵩小学校4年1組では名鉄広見線について学習しています（企画課企画調整係記事）」  
3月号：御嵩小学校では様々な「交通・環境学習」に取り組んでいます！（学校教育課学校教育係記事）」

##### (4) 展示：「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～

- ・ 学習のまとめとして自分たちの思いを情報発信するために、ポスターや壁新聞を作成して、名鉄のご協力を得て複製38枚を御嵩駅構内掲示板に展示した。

## 体験と地図

### 2年生 生活科「まちたんけん」

実に整然と並び、乱れることなく歩く2年生。班行動の約束と交通マナーを見事に守っていました。「みたけ庵」で礼儀正しく、静かに、順番を守ってインタビューする姿。精一杯努力していました。この背景には、

- ①強い目的意識（願い）を一人一人がもっていた。
- ②約束を守るという「道徳観」を身に付けていた。
- ③はみ出しそうな仲間に対して、お互いに注意しあえる 集団としての「自浄作用」をもっていた。

生活科の単元だけで指導できるものではありませんが、生活科の学習の中で、自分のもつ力を発揮したと言えます。

どきどきしながら質問したことや、ていねいに教えていただいたこと、ルールを守ったことなど、一つ一つの体験が子どもたちの財産になったことと思います。

また、保護者の学習サポーターの力も大きいです。保護者に協力していただけるおかげで、安全に活動できました。指導者も子どもも安心できます。ありがたいことです。このような保護者の支援の様子は、7月の懇談会の話題にさせていただければと思います。



### 3年生「わたしたちのまち」

3年生が御嵩町内の調査をしています。コースは、2年生の「町たんけん」と重複する部分が多いです。しかし、目的が異なります。

生活科

社会環境・自然環境とのかかわり

親しみ、愛着、利用

社会科

市町村レベルでの調査

分布と利用、地形と利用

八方位の導入、地図の見方

個別具体的な生活科の学びから、客観的な事実認識へと変化させなければなりません。

町の観光地図を見ることは、地図学習の第一歩です。

写真のように、全体を把握させることは、客観的な

見方を育てる方法として重要です。社会科では、具体的な体験や調査を通して学ぶことが大切です。

さらに、生活経験も授業では大活躍します。3年生の「わたしたちのまち」の学習は、「分布論」をベースにしています。視野を広げ、土地利用の特徴を調査と経験から把握します。その後、土地利用の傾向をまとめることとなります。思考力・判断力・表現力を伸ばす格好の場です。

「地図」や「道路」を扱うことは、交通環境学習の基本だと考えます。学年の発達と教科の特質を踏まえて、扱いを工夫してください。なお、3年生総合学習室の地図パネルを使うと、部分と全体を把握することができます。特に、土地利用については、とても分かりやすいと思います。山の多い地域、田畑の多い地域、住宅地、商業地、幹線・鉄道の影響、扇状地など、地図から読み取る授業も考えてみてください。早速、「自分の家見つけ」をされたクラスもあります。色々活用していただければありがたいです。



み たけ しょう こう ほう

# 御嵩小校報

NO. 1546

平成21年度 第5号 5月26日

学校の教育目標  
のびよう きたえよう  
せいいっぱい

- ・まなび合い
- ・みがき合い
- ・たかめ合い

## 交通・環境学習支援事業



6年 中山道を歩こう



4年 ごみ処理についてを学ぼう

御嵩町では、地球温暖化防止に向けた先導的な取組を推進しており、町全体でCO<sub>2</sub>排出削減の仕組みづくりを検討しながら、その実現を目指しています。こうした状況の下、子ども達が学校の場で環境問題を学習し、家庭や地域で自ら実践することにより、町全体の様々な活動に波及していくことも期待でき、小学校における環境学習は、その効果の面でとても有効的と考えられています。そこで、御嵩小学校は、御嵩町教育委員会と東京に本部を置く「交通エコロジー・モビリティ財団」より支援を受け、交通・環境学習について研究を深めることとしました。この事業では、教材や教具開発のための助成、研究費の助成、同事業展開のための指導助言などの支援を受けることができます。

本校では、「身近な地域社会として住んでいる御嵩町の理解を深め、郷土への愛着を醸成するため、公共交通を切り口にした交通学習や地球温暖化防止に向けた環境学習、中山道を中心とした歴史や文化など郷土学習を相互に関連させた御嵩町独自の交通・環境学習を推進すること」を研究実践の目的としました。本年度実践の一つが、6年生の「中山道を歩こう」であり、4年生の「ごみ処理について学ぼう」です。

なお、交通エコロジー・モビリティ財団の詳細については、検索キーワードに「エコモ」と入力してください。財団HPに展開できます。

### 新型インフルエンザへの学校対応について

ご承知のとおり、関東・関西で新型インフルエンザのまん延・確認が報告されています。そのため、修学旅行の中止・延期が県内はもとより全国で実施されています。

御嵩小学校では、6月の6年生の京都・奈良方面修学旅行について、新型インフルエンザの関連情報を収集しながら、その実施・延期について検討してまいりました。現段階では完全な収束までは至らないため、町教育委員会と協議し、10月に延期することとしました。今後、新型インフルエンザの流行により、見学体験学習（社会見学）の実施にも影響が出ると考えられます。また、県内・地区内での感染が確認された場合、「休校」という措置の可能性もあります。

学校では、一般的なインフルエンザの予防対策同様、手洗いとうがいを続けるよう指導しています。ご家庭でも励行をお願いします。また、学校では飛沫飛散防止のために、子ども用マスクを準備していますが、体調に合わせ、ご家庭でもご準備ください。

み たけ しょう こう ほう

# 御嵩小校報

NO. 1550  
平成21年度 第9号 6月23日

学校の教育目標  
のびよう きたえよう  
せい いっぱい

- ・まなび合い
- ・みがき合い
- ・たかめ合い

## 今年も菊づくりに取り組みます。



今年の5年生も、総合的な学習の時間に、菊づくり名人の柴田さんを講師に招いて「菊づくり」に取り組みます。

今回は、土作りを終え、鉢に苗を植える活動に取り組みました。順調に育てるために、特に、水やりのタイミングが大切だということ学びました。

昨年度より鉢の数も増やしました。5年生の子どもたちが育てた菊が、地域を飾る日を楽しみにしてください。

## 特大地図パネルが登場

御嵩小学校3年生総合学習室に、交通エコロジー・モビリティ財団の補助を受け、特大地図パネルを設置しました。

文教施設や史跡・文化財も色分け・文字表示がされています。全体をとらえることが難しかった御嵩町内の中山道全体を、正確にたどることができます。また、自分の家がおよそどこにあるのか探し出すことが可能です。ホワイトボード用のペンも使用可能です。今後、交通・環境学習の共通教具として活用します。



### 新型インフルエンザ対策 ポンプ式消毒液

新型インフルエンザ対策の一環として、「御嵩町新型インフルエンザ対策本部」より、ポンプ式消毒液をいただきました。校内の3カ所の玄関に置きました。必要に応じてご利用ください。

シリーズ

# 名鉄広見線に乗ろう！

御嵩小学校4年1組では

名鉄広見線について学習しています



11月4日（水）に御嵩小学校の4年1組のみなさんが、名鉄広見線についての授業をおこないました。

この授業は、「きょう土に伝わる願い〜ぼくらの電車いきいきプラン〜」と題して、社会科の授業のなかで全14回おこなわれるもので、今回は7回目でした。これまでの6回の授業では、実際に電車に乗り、身近に感じ、鉄道が敷かれるまでの経緯を学んできました。

今回の授業では、「どうして、一度断った鉄道を御嵩に敷こうとしたのだろうか」ということについて考え、御嵩より先に鉄道が敷かれた、ほかの町の鉄道敷設以前と以後の駅周辺の絵地図の資料を見比べて、「鉄道が敷かれてからのほうがたくさん家が建ち、にぎやかになったから」などの意見が児童から出ました。また、馬車の写真と鉄道の写真とを比較して、当時のことを思いながら、「馬車は一度に6人しか乗れないのに、鉄道は40人乗れるので便利」といった意

見が出ました。

そのあと、元小中学校校長の中島勝國先生なかしまかつくにから、名鉄広見線の歴史についてのお話を聞きました。御嵩に鉄道が敷かれたのは、鉄道を敷くことによって御嵩をもう一度発展させたいという、当時の人々の強い願いや努力の結果だということ学びました。



「乗って残そう、広見線」を合言葉に、大切な公共交通機関である名鉄広見線をみんなで乗って守りましょう。

■問い合わせ先：企画課企画調整係  
担当：渡辺わたなべ（内線 2224）



## 御嵩小学校では、



# さまざまな「交通・環境学習」に取り組んでいます！

御嵩小学校では、平成 21 年度、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け、さまざまな「交通・環境学習」を実施しました。今回は、取り組みの一部をご紹介します。

- 1 年生 「しぜんとおそぼう！」
- 2 年生 「まちたんけん」
- 3 年生 「わたしたちのまち」
- 4 年生 「きょう土に伝わる願い ～ほくらの電車いきいきプラン～」
- 5 年生 「自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～」
- 6 年生 「わたしたちの生活と交通・環境」

これらの学習を通して、地球温暖化防止をはじめとした環境保全や中山道・名鉄広見線をはじめとした歴史や文化、そして、まちづくりや産業などが、実は、わたしたち一人ひとりのくらしと交通に密接に関連していることを学びました。

今後も、「交通・環境学習」に取り組んでいく予定です。



▲ 「まちたんけん」で駅案内係に話を聞く児童

### ☆たとえば…

4 年生は、実際に名鉄広見線に乗り、利用客や駅員さんなどにお話を聞きました。また、元小中学校校長のなかしまかつくに中島勝國先生から名鉄広見線の歴史についてのお話を聞くなどして、広見線が通勤や通学の大切な足であることや「御嵩を発展させたい」という先人の強い願いと努力の結果だということを学びました。そして、わたしたちができること、どうしていけばよいかなどを話し合いました。



▲ 巨大地図パネル「御嵩町マップ」

### ★特大地図パネルが出現！！わたしたちの“まち”が見える！

平成 21 年春。総合学習室に特大地図パネルが出現しました。全体を捉えることが難しかった御嵩町内の中山道を正確にたどることができます。

学校や公共施設、史跡・文化財も色分けして見やすく、ホワイトボード用のペンを使用して、いろんな書き込みもできます。早速、「自分の家みつけ」をして、“わたしたちのまち”の学習に活用しています。

### ★学校にいろんなクルマが大集合！

昨年 11 月 11 日（水）。学校に、次世代カーの燃料電池車（日産自動車株）、電気自動車（株）ゼロスポーツ（各務原市）、天然ガス車（東邦ガス株）やディーゼル車など、いろんなクルマが集合しました。社会科の「自動車をつくる工業」の御嵩町の産業と環境を考えるなかで、メーカーなどの協力を得て実現しました。

児童は、燃料電池車が水素と酸素を反応させて発電しながら走ることを聞き、排気ガスの代わりに水が出ることを確かめると驚きの声を上げていました。燃料電池車の試乗では、「音がしない」静かな走行に驚き、それぞれのクルマの排気ガス調べでは、マフラーにはめ込んだ白い靴下の汚れかたを比較して、クルマと環境の関係やみんなが環境のために大変な努力をしていることを学びました。



▲ 電気自動車の特徴を聞く児童

■問い合わせ：学校教育課学校教育係 担当：かざやま鍵山（内線 2310）

(5) 御嵩町ホームページ・ニュース

- ・御嵩町ホームページでは、ニュースとして「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～の広報記事を掲載した。

(6) マスコミ

- ・マスコミに対しては、「クルマ大集合」への取材依頼、「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～の投稿などにより、記事掲載を推進した。

(7)学会・イベント等での報告：土木学会「第1回土木と学校教育フォーラム」

- ・土木学会，教育企画・人材育成委員会「土木と学校教育会議」検討小委員会主催「第1回土木と学校教育フォーラム」

主催 土木学会教育企画・人材育成委員会 「土木と学校教育会議」検討小委員会  
(委員長 京都大学大学院 藤井聡)

協賛 交通エコロジー・モビリティ財団、財団法人全国建設研修センター

後援 国土交通省、日本社会科教育学会、新宿区教育委員会、社団法人日本土木工業協会

実施期日 2009年8月7日(金) 9:30～17:30

会場 土木学会(講堂、A,B,C,D会議室)



写真 4.2.1 「第1回土木と学校教育フォーラム」でのプレゼンテーション  
(岡本英晃氏@交通エコロジー・モビリティ財団)

御嵩町ホームページ - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス(D) http://www.town.mitake.gifu.jp/index.cfm

# 御嵩見聞録

御嵩町

584082 携帯サイト サイトマップ ご意見・お問い合わせ 文字サイズ変更

**<緊急情報> 新型インフルエンザに関する情報**

**ニュース**

名鉄広見線への思いを描いたポスターが御嵩駅ホームに掲示されています

御嵩小学校4年生では、交通環境学習の一環として、社会科の授業の中で存続が問題となっていない名鉄広見線について学習してきました。学習のまとめとして、御嵩小学校4年生児童が広見線への思いを描いた色鮮やかなポスターが御嵩駅ホームに掲示されています。ぜひ一度ご覧になられてはいかがでしょうか。3月末まで掲示される予定です。



[過去3件のニュース]

ふるさとみだけ 応援寄附金

乗って残そう、広見線

御嵩町、広見線通信

**人口**

2010年8月1日現在

人口	19,570人	(-12)
男性	9,836人	(-5)
女性	9,934人	(-7)
世帯	6,883世帯	(+4)

※ ( ) 内は前月比

写真 4.2.2 御嵩町ホームページ：TOP ニュース記事

## 中日新聞 CHUNICHI Web

### 【岐阜】

#### 学校に「次世代カー」来た！ 燃料電池車の試乗も

2009年11月12日

御嵩町の御嵩小5年生が11日、同校に集結した電気自動車などの「次世代カー」に触れ、環境に配慮し二酸化炭素(CO2)を排出しない車の走行の仕組みや将来性について学んだ。

環境学習の一環で同校が初めて企画し、交通システム研究所(大阪市)が協力。県内メーカーによる電気自動車はじめ、天然ガス車、電気とガソリンで走るハイブリッド車など7台が並んだ。

各務原市の自動車メーカー「ゼロスポーツ」は、100ボルトのコンセントで充電できる1人乗りの電気自動車を紹介。CO2を排出せず空気を汚さない半面、電池が高価で車の価格も高いといった特徴を担当者が説明し、「近い将来は役場や郵便局の車から電気自動車に変わっていくと思います」と児童に語りかけた。

備え付けの水素タンクに酸素を送り込み、電気を発生させて走る日産の燃料電池車も披露され、児童が乗り心地を体感。同社でも数十台しか製造されていないといい、試乗した児童は「音がしない」と静かな走行に驚いていた。

このほかディーゼル車、ガソリン車、天然ガス車の3台のマフラーに白い靴下をはめ込み、それぞれ排気ガスでどれだけ汚れたかを調べる試みも。増倉成径校長は「1つの学校にこれだけの車がそろうことはあまりない。大人が環境のために何をしているか、子どもたちもいい勉強になったと思う」と話した。

(島将之)

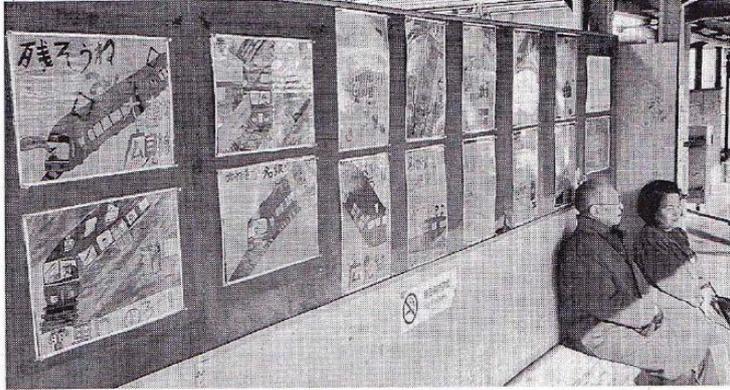


メーカー担当者から電気自動車の特徴を教わる児童ら＝御嵩町の御嵩小で

写真 4.2.3 「クルマ大集合」記事

# 広見線存続訴えるポスター 御嵩駅構内

名鉄広見線の利用や存続を訴える児童らのポスター—御嵩町の御嵩駅で



御嵩町御嵩小学校の四年生児童が、存続の岐路に立つ名鉄広見線新可児—御嵩駅間の存続と利用を呼び掛けるポスターや、広見線の歴史をまとめた壁新聞を作り、駅構内に張り出した。(島将之)

## 御嵩小4年生が学び発表

# 歴史をまとめ 壁新聞も揭示

町が環境に優しいまちづくりに重点施策に掲げることから、同校では二〇〇九年度から三年間の予定で、社会科の「交通・環境学習」として、児童が広見線の歴史や現状を学んでいる。学習のまとめに情報発信しようとして、百十人の四年生児童がポスターか壁新聞のいずれかを選んで作成。このうち三十八枚を張り出した。

乗車体験のほか、地域の郷土史家から鉄道敷設の歴史を教わったり、住民に電車の利用状況などを聴き取ったりした児童は、学習の成果を作品に反映。ポスターは電車を児童が笑顔で囲む作品が多く「名鉄電車残そうね」「名鉄広見線の歴史をかえないで」といったメッセージが添えられている。三月末まで掲示する。

## 可児



紅梅  
東彩会所属 中島 正平  
(白川町)

多治見支局  
〒507-0037  
多治見市首羽町4-39  
0572(22)3121  
Fax(23)5331

可児通信部  
0574(62)1501  
Fax(61)0270

美濃加茂通信局  
0574(25)7788  
Fax(25)7669

関支局  
0575(22)3234  
Fax(24)3939

岐阜支社  
〒500-8875  
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地  
058(265)0191  
Fax(262)8706  
(販売)(265)0265  
(広告)(266)4791  
(事業)-(265)0267

図 4.2.1 「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～記事

## 4.3 課題と今後の情報提供・広報啓発の取り組み検討

### 4.3.1 課題

本年度は、「交通・環境学習」の本格的な取り組みを開始した年度としては、精力的に幅広く情報提供・広報啓発を展開できたものと評価できる。

なかでも、子どもたちが学んだ成果を広く発信することは、社会とのコミュニケーションが成立し、社会的にも取り組みを受け入れてくれたという達成感や満足感を実感できるため、大きな成果として評価される。

しかしながら、一方で、いくつかの課題が指摘される。

#### 課題 1：対象者への遡及効果

- ・本年度の情報提供・広報啓発の取り組みは、おおむね当初計画した対象者への発信はされたと考えてよい。なかでも、幅広い町民などへの広報については、新聞、CATV、広報紙、そして御嵩駅での展示等は、より多くの町民に知らせるという意味では効果が大きかったと考えられる。

- ・しかし、今後の「交通・環境学習」の広がりにおいて“協力者”そして“主体者”として期待される対象である教員、専門的識者、および保護者に対して、協力行動意図を活性化したり、主体者としての態度を醸成するといった啓発的な取り組みは、必ずしも十分ではなかったといえる。

- ・今後は、“協力者（保護者や専門的識者）”及び“次の主体者（教員）”に対する情報提供については、参観（見学）などの何らかの形で「交通・環境学習」に接していただくなどの協力行動意図の活性化、主体者としての態度の醸成をねらいとした取り組みの検討が必要である。

#### 課題 2：広報主体と連携

- ・本年度の情報提供・広報啓発活動は、大半が学校が主体となって推進し、町は広報紙「はっとみたけ」への記事掲載など一部の取り組みにとどまった。情報源が小学校にあるため、やむを得ない判断であったが、学習の主体である小学校が大半の広報活動も実施すると、小学校の負荷が大きく持続性という意味では問題として指摘される。

- ・したがって、今後は、作業分担を明確にして、十分な連携を図りながら、持続可能な範囲で、効率的に情報提供・広報啓発活動に取り組んでいく必要があると考えられる。

#### 課題 3：ポータルサイトの開設と維持運用

- ・本年度は、インターネットによる情報提供は計画していなかったが、御嵩町ホームページへのニュース記事の掲載を実施した。インターネットによる情報提供は、ポータルサイトを構築して配信することが一般的であり、ポータルサイトの構築によって、「交通・環境学習」に係るすべての情報を集積したデータベース的な運用が可能となる。たとえば、授業を実施する教員が、教材、指導と学習事例等の情報をいつでも参照して、授業の参考にすることが可能となり、持続的な取り組みの基盤の一つとして非常に有用なツールとして活用できる。

- ・したがって、今後は、学習を支援するという視点から、関係者間でポータルサイト

の構築に向けた検討を行うことが考えられる。

#### 4.3.2 今後の情報提供・広報計画の取り組み方針

本年度の課題を踏まえて、今後は表 4.3.1 に示すような枠組みで情報提供。広報啓発活動に取り組むことが考えられる。

表 4.3.1 今後の情報提供・広報啓発の取り組み方針

対象					情報媒体	提供内容	情報発信者
保護者	教員	専門的識者	関連団体	一般市民			
◎					保護者通信	授業の予告、案内、結果報告	学校
	◎				教員通信	授業の予告、案内、結果報告	
	◎	◎	◎		報告書配布	授業内容、教材、検証・評価等	
○	○	○	○		(公開授業)	(授業)	
				◎	(学習の一環としての情報発信)	学習成果の発信(掲示板、イベント、展示等)	
					(情報源の生成と町への提供)	授業の予告、案内、結果報告	
				◎	御嵩町ホームページ・ニュース	授業の予告、案内、結果報告	御嵩町教育委員会
○	◎	○	○	◎	ポータルサイト	授業の予告、案内、結果報告、「交通・環境学習」データベース	
○	○	○	○	◎	広報紙:「ほっとみたけ」	授業の予告、案内、結果報告	
○	○	○	○	◎	マスコミ	取材案内、記事提供	
		◎			学会・イベントなどでの報告	「交通・環境学習」実施を通して得た知見	関係者個人

表 4.3.2 情報提供・広報啓発の役割分担と連携（案）

広報主体	役割	ねらい	情報提供など媒体
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報源の生成と発信</li> <li>・保護者、教員を対象とした情報提供と啓発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の一環としての情報発信</li> <li>・保護者の協力行動を期待する</li> <li>・「交通・環境学習」に取り組む教員への情報提供と主体者の拡大</li> <li>・授業実施による知見の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「掲示板」など</li> <li>・保護者通信</li> <li>・教員通信</li> <li>・学習教材、実施記録等のポータルサイトへのアップ</li> </ul>
御嵩町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報源の提供用資料への加工と提供及び広報窓口</li> <li>・学校の広報活動に対する支援</li> <li>・広く町民、関係機関団体を対象とした広報啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広く町民に取り組みを知らせるとともに、関係者、関係機関団体などの協力行動を誘引する</li> <li>・「交通・環境学習」に関連する情報の窓口となる</li> <li>・学習の主体である学校の負担を軽減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイトの開設、運営</li> <li>・広報紙誌、マスコミ、イベントなどへの広報</li> </ul>

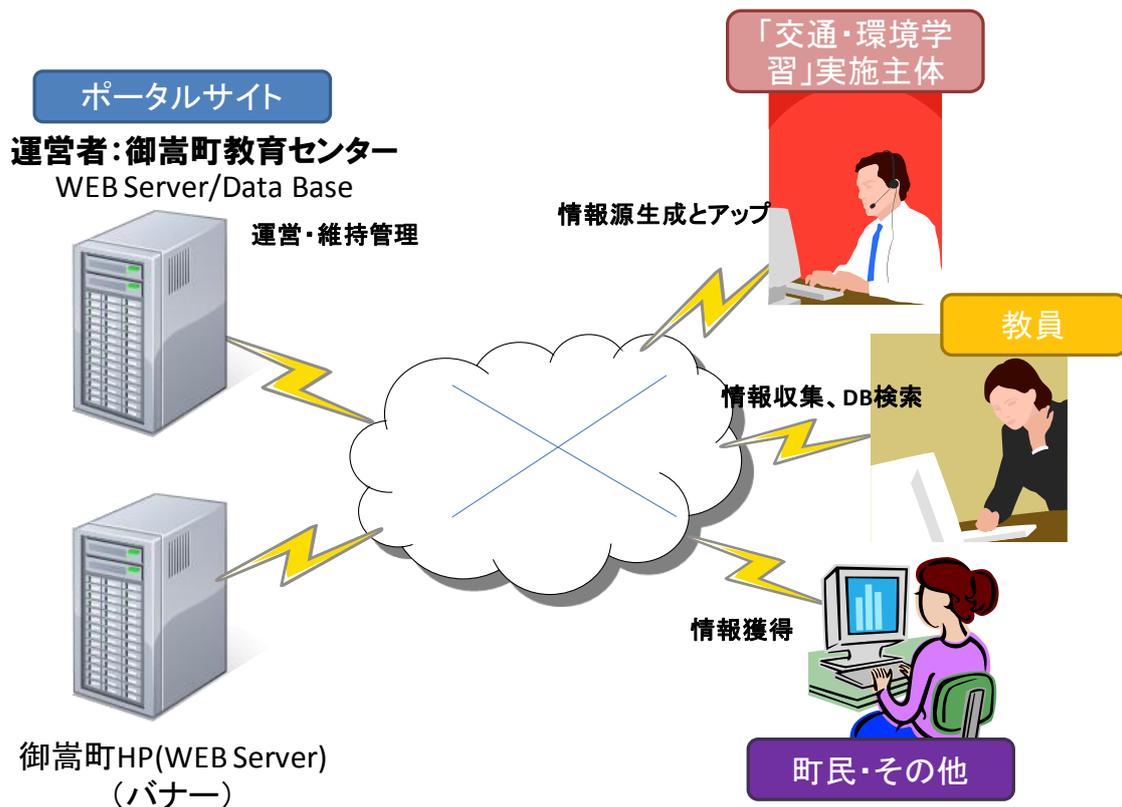


図 4.3.1 ポータルサイトの構築と運営イメージ（案）

## 5.今後の課題と次年度に向けた検討企画（案）検討

### 5.1 まとめと課題

本年度の事業は、本格的な初年度であったにもかかわらず意欲的な「交通・環境学習」の取り組みであったと言える。

なかでも、御嵩小学校では全学年で「交通・環境学習」を実施した。意欲的に取り組まれた教員の皆様には敬意を表したい。また、初めての取り組みであったにもかかわらず、多くの媒体で情報提供・広報を実施することができ、多くの成果を得ることができたものと考えられる。

しかしながら、意欲的なカリキュラムを構成したために相当程度大きな労力を要した取り組みが多かったこと、全学年での取り組みであったために必ずしもそれぞれの学習に十分な支援をすることができなかつたことなどが問題点として指摘される。また、当然のことであるが、本年度は本格的な初年度の取り組みであり、今後の着実な教材開発や取り組み事例の積み重ねと、それらを活用していくことが必要であることは言うまでもない。

さらに、情報提供と広報・啓発活動についても、持続的な取り組みに向けた合理的な役割分担と仕組みを構築していくことが望まれる。

以下に、本年度の取り組みにおける問題点に基づき、課題を整理する。

---

#### 課題 1：多様な教材開発と単元設定、カリキュラム構成の蓄積と活用のしくみ構築

・本年度は、御嵩小学校の全学年で「交通・環境学習」に取り組み、各学年で新たな取り組み例として一つの適用事例の蓄積がなされたものである。このような学習は、やはり地域固有の背景や風土、学年、児童等の特性を十分考慮して、学習が子どもたちにとってより望ましいものとする必要がある。今後は、着実な取り組みの積み重ねで、教材の開発や、多様な単元設定とカリキュラム構成などを蓄積し、活用していくしくみを構築していくことが必要である。

→教材、取り組み事例、活用要領の作成等

#### 課題 2：望ましい関係主体間の連携と支援のあり方の構築

・本「交通・環境学習」は、学校主体での取り組みを原則として、行政団体や専門家が支援をしていくこととしているが、支援者は常に教育の現場に同席しているわけではないため、支援に際して十分なコミュニケーションが必要である。専門的な知見や人、情報も必要となることから、単に学校からの支援要請に応えるといった対応を超えた望ましい関係主体間の連携と支援のあり方の構築をしていく必要がある。

→支援組織、出前講座、ゲストティーチャー等の人材登録と活用のしくみの構築等

#### 課題 3：持続的な取り組みに向けた情報提供・広報啓発の役割分担と仕組みの構築

・提供すべき情報源は学校にある一方で、情報提供と広報啓発の取り組みをすべてにわたって学校が分担するには労力が大きすぎるため、その望ましい役割分担と仕組みを構築していく必要がある。

→関連情報のデータベース化と活用のしくみの構築等

---

## 5.2 平成 22 年度検討企画（案）

### 5.2.1 目標と検討項目

平成 22 年度は、平成 23 年度までの事業期間のほぼ中間に位置し、事業当初計画では「持続的な取り組みシステムの構築」を目指して、1.町内全小学校での「交通・環境学習」の実施、2.取り組み支援体制と仕組みの構築、そして 3.御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成（暫定版）を目標として設定している（表 5.2.1）。

したがって、平成 22 年度は、前記の課題への対応を踏まえて、目標を達成するために、表 2.2 に示すような検討を行うことが考えられる。

表 5.2.1 本事業の年度別目標設定

年度	位置付け	目標
平成 20 年度	事業実施準備	1.検討体制の立ち上げ 2.基礎教材の開発 3.単元、カリキュラム構成
平成 21 年度	学習実施と展開	1.教材の開発、拡充 2.モデル校での「交通・環境学習」の実施と検証
平成 22 年度	持続的な取り組みシステムの構築	1.町内全小学校での「交通・環境学習」の実施 2.取り組み支援体制と仕組みの構築 3.御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成（暫定版）
平成 23 年度	取り組みの継続・発展	1.継続的・発展的な取り組みの定着 2.御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成（改訂版） 3.中学校での取り組み開始

表 5.2.2 平成 22 年度の検討項目（案）

- (1) 多様な教材、単元とカリキュラム作成方法の検討
  - ・地域、学校、学年などの特性に応じた多様な教材、単元とカリキュラムの作成方法を、各校の授業実施教員と連携して作成し、その方法の体系化を検討する。
- (2) 町内全校での授業実施と検証、評価
  - ・大きく地域特性が異なることを前提として、学校主体を原則として町内全校での授業実施を試み、取り組みを検証、評価する。
- (3) 持続的な取り組みと情報提供・広報啓発システムの構築
  - ・「交通・環境学習」を持続的に取り組んでいくために、関係主体間の連携と支援のあり方、情報提供・広報啓発の役割分担と仕組みを検討して、構築していく。
- (4) 御嵩町版「交通・環境学習」実施要領作成（暫定版）
  - ・町内全校での取り組み実績と検証・評価に基づいて、持続的な取り組みのガイドラインとしての実施要領暫定版を検討して作成する。

### 5.2.2 スケジュール

年月	主要な取り組み	情報提供・広報啓発	委員会
平成22年 4月	各校教員への 情報提供と 枠組み検討	ポータルサイト構築 に関する検討	
5月			
6月	教材開発、単元、カリ キュラム構成	情報提供・広報啓発活動	
7月			第1回
8月	「交通・環境学習」の実施	情報提供・広報啓発活動	
9月			
10月	検証・評価	情報提供・広報啓発活動	第2回
11月			
12月	次年度に 対した課題 検討	情報提供・広報啓発活動	
平成23年 1月			
2月	次年度に 対した課題 検討	情報提供・広報啓発活動	
3月			広報紙「ほっとみたけ」 取り組み広報

注) スケジュールは、小学校の年間学習計画との調整が必要である。

# 資料編

## <目次>

- 資料 1. 御嵩町交通・環境学習支援事業推進委員会平成 21 年度委員等名簿
- 資料 2. 学習指導案
- 資料 3. 教員によるとりまとめ資料
- 参考資料. 教材事例等

# 資料 1. 御嵩町交通・環境学習支援事業推進委員会

## 平成 21 年度委員等名簿

	所属等	氏名	備考
委員	名古屋産業大学 大学院 環境マネジメント研究科 環境情報ビジネス学部 教授	伊豆原 浩二	※委員長 御嵩町鉄道懇談会アド バイザー
	可児郡PTA役員	永吉 徳次	御嵩小学校PTA会長
	御嵩町立上之郷小学校 教頭	杉本 純一 (奥村 武則)	
	御嵩町立御嵩小学校 教頭	服部 篤司	
	御嵩町立御嵩小学校 教頭	原 和弘	
	御嵩町立伏見小学校 教頭	大野 千幸	
	御嵩町まちづくり担当参事	堀 智孝	
事務局	交通エコロジーモビリティ財団 交通環境対策部長	加藤 信次	
	交通エコロジーモビリティ財団 交通環境対策部 交通環境企画課 企画係長	岡本 英晃	
	㈱交通システム研究所 代表取締役	大藤 武彦	
	御嵩町教育委員会 教育長	丹羽 一仁	
	御嵩町教育委員会 教育担当参事	加藤 保郎	
	御嵩町教育委員会 学校教育課長	田中 秀典	
	御嵩町教育委員会 学校教育課主幹	二村 文生	
	御嵩町町長部局 企画課 企画調整係長	小木曾 昌文	
御嵩町町長部局 まちづくり課 エコ推進係長	奥村 光良		

注). ( ) 内は前任者

## 資料 2：学習指導案

### <目次>

- 資料 2-1 第 2 学年生活化指導案
- 資料 2-2 第 3 学年総合的な学習の時間学習指導案
- 資料 2-3 第 4 学年社会科学学習指導案
- 資料 2-4 第 5 学年社会科学学習指導案
- 資料 2-5 第 6 学年総合的な学習の時間学習指導案

## 第2学年 生活科学学習指導案

日時 : 平成21年6月11日(木) 第2校時

場所 : 2年4組教室

授業者 : 谷中 静香

### 1. 単元名 ときどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～

### 2. 指導の立場

#### (1) 本単元について

本単元は学習指導要領の内容(3)を受けて設定し、展開したものである。

#### (3) <地域と生活>

自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

子どもたちは学校や家庭を中心とした生活から、友だちや地域の人々、身の回りの環境などのかかわりを通して、自分たちの地域へと生活の場を広げる。本単元では、身近な地域に出かけることで、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに親しみや愛着をもち、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりすることを期待している。

学習指導要領には、「ここで人々や場所を取り上げる際には、単に地域全体を扱うということではなく、児童の思いや願いを生かした活動ができるとともに、繰り返しかかわる活動ができ、活動を通して地域がより身近なものになることが大切である」と書かれている。そこで、子どもたちが学校周辺のまちに興味・関心をもつことで、どんな思いや願いをもつかを想定し、実際に子どもたちが出かけられる場所を考えた。

そして、本単元「わたしのまちをたんけんしよう」では、校区内で「歴史のまち御嵩町」として挙げられる御嵩駅東側を探検することにした。ここには、様々なお店もあるため、「お店の中はどんなふうになっているのかな」「お店の人はどんな人だろう」と思うと考えられる。また、4月に校内の春見つけを行った子どもたちは、「学校の外でも草花や生きものもさがしにいきたいな」と願うと考えられる。この願いは、まちの中の自然へ着目し、校区内の地域の自然探検を行う「生きものをかおう」に位置づけることとした。

さらに、本単元では、まち探検の活動を通して、人々と適切に接する力や安全に生活する力を身に付けさせたい。

人々と適切に接することは、相手のよさを感じ取り、自分のよさを伝えることにもなり、より深いかかわりを生む。そのために、地域の人々とあいさつをして適切な言葉遣いでやりとりすることが必要である。ここでは、地域の店を訪問し、そこで働く人々にインタビューする活動を行う。その際には、あいさつをする、用件を伝える、相手の都合を尋ねるなど、マナーを守って行動することが求められる。そして、実際に地域の人々とかかわり、マナーを守ることで互いに気持ちよく生活できるという体験を重ねることで、子どもたち自らが人々と適切に接する大切さを感じ、その接し方を身に付けるようにしていきたい。

また、安全に生活するために、広い道、狭い道、自動車も行き来する御嵩のまちの様子を捉えることを意識し、実際に歩くことによって、交通安全の意識を高められると考えられる。1回目の探検では、学級ごとに並び、教師が先導して歩く。しかし、2回目の探検では、グループに分かれての子どもたちだけで歩くことになる。ここでは、教師や保護者ボランティアの方が危険箇所立って子どもたちを見守るが、子どもたちにとっては、その場の状況を捉え、危険を予測して行動することを学ぶ場としても位置づける。そのために、2回目の探検の前に、1回目の探検で見つけた道の様子などを交流して探検の約束を行うことも大切にしたい。

この単元では、実際に繰り返し出かけることで、御嵩駅東側のまちの中で親しみや愛着をもつ人や場所を

増やし、このまちが安心して生活できる場として感じられるようにしたい。そして、本単元での活動を通して、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにしたい。

## (2) 児童の実態

男子13名、女子14名 計27名の学級である。

本単元では、まちの人や建物、道路に特徴が見られ、子どもたちの探検が可能な距離にある「御嵩駅東側のまち」を取り上げることにした。このまちは、かつて中山道の宿場まちとして栄え、「歴史の残るまち」として親しまれ、様々なお店があるまちである。

しかし、御嵩小学校の校区は広く、この地域に住んでいる子どもは学級全体で3人である。その子どもたちも含め、みたけ館内の図書館や郵便局を利用することはあっても、利用したお店の話題となるとバローや校区外の大型スーパーの話になり、このまちの中のお店についてはほとんどでてこない。授業で「まちのひみつ」と尋ねても、まちの様子そのものが頭に浮かばない子も多いと考えられる。

そのため、「行ったことがない。」と言う子どもにもまちのことを大まかにつかんで興味・関心をもてるようにし、学級全体でまちの様子を共有できるように、単元の始めに1回目のまち探検を位置づけた。

1回目のまち探検では、学級全体でまちの様子を大まかにつかみ、見つけた「まちのひみつ」を学級全体で交流し、このまちを校区内のまちとして身近なものに感じさせる。さらに、この全体交流によって、まちの人やお店について「もっと詳しく知りたい」という興味・関心を高めさせ、2回目のまち探検では、グループで行動し、お店の中を見せてもらったり、お店の方にインタビューをしたりして、自分から主体的にかかわってより詳しくなることによって、よりこのまちに対して愛着がもてるようにしたい。

また、前単元の「1年生と学校たんけんをしよう」では、人とのコミュニケーションの力として、上級生としての下級生への適切な接し方を子どもたちに身に付けさせたいと考えた。小学校の中で初めて上級生となった子どもたちは、お兄さん、お姉さんとして下級生の1年生の子たちにどのように接したらよいかを考えて探検計画をし、行動した。

1年生と実際に探検を行ったあとには、「1年生の子に（説明が）よくわかったって言われたよ。」「失礼しますって大きな声で言ったら、1年生の子もちゃんとあいさつしてくれたよ。」と子どもたちがとても嬉しそうに話したり、プリントに書いたりする姿が見られ、適切に人と接したことによる喜びも実感したようであった。

“1年生→まちの人（大人）” “学校内→校区のまち”と対象や場所が広がるが、前単元で学んだことを生かし、相手のことを考えた話し方や行動、お店の中でのマナー、交通安全のルールを守ることにつなげ、人々と適切に接する力や安全に生活する力を伸ばしていきたい。

## (3) 本時について

1回目の探検によって自分が見つけた「まちのひみつ」は、建物（青）・人（黄）・道路（ピンク）・自然（緑）と色分けしたカードに絵や文でかいている。本時は、このカードを地域マップに貼って「まちのひみつ」を学級全体に発表し、交流することによって、まちに対する子どもたちそれぞれの関心をより高めることをねらいとしている。ここでは、友だちの見つけた「まちのひみつ」を聞くことによって、まちの中には自分が知らないことがあることに気付かせ、「もっと詳しく見てみたい」という思いへつなげたい。そして、プリントに書いたり、ペア交流をしたりして自分の思いを言葉にして表現することによって、2回目のまち探検への意欲をもたせたい。

## (4) 人権同和教育の観点

本時の展開では具体的に次の3点が人権同和の観点となる。

- ・ 「まちのひみつ」を見つけようと身近なまちの様子に意識して目を向け、見つけたことを発表したりマップに表現したりすることで「認識力」を高めることができる。

- ・ 交流活動において、相手のことを考えてわかりやすく伝えようとする意識を高めようとする中で「行動力」を高めることができる。
  - ・ グループ交流や全体交流の中で、友だちの話を聞いて自分の意見や思いと比較したり、取り入れたりして、自分の意見や思いをより深めていくことが「自己啓発力」につながっていく。

### 3. 研究のテーマに関わって

#### (1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造

～「交通・環境学習」を視点として～

2年生のめざす子どもの姿・研究の重点

御嵩町の人や場所、自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、自分なりの方法で表現することができる。

#### (2) 研究内容に関わって

##### 【研究内容1】 交通・環境問題を視点とした「生活科」における学習プロセスのあり方

生活科は、子どもが身近な環境と直接かかわる活動や体験を楽しむことを大切にしており、発見したことや成功したことなどの喜びを味わうとともに、直接体験を通して実感的なわかり方ができるようにすることを大切にしている。

本単元では、まち探検の活動を通して、まちの人や場所に出会い、適切にかかわることで、子どもたちが御嵩のまちの人や場所にかかわることに関心を高め、まちのよさに気付き、愛着をもつことができるようにしたい。また、実際にまちの中を歩いたことで見つけた道路交通の様子を取り上げ、グループでの探検活動の計画を行うことで、地域の中での安全で適切な行動を子どもたち自身が判断できるようにしたい。

そのために、次のことに留意して単元構想を行った。

- ・ 学校内の探検→御嵩のまちの探検へ、全員での探検→グループでの探検へなどステップを踏む。
- ・ まちや人と関わる探検（わたしのまちをたんけんしよう）、自然と関わる体験（生きものをかおう）と視点を明確にして活動にあたる。
- ・ 校外での学習を多く取り入れ、体験学習の時間を十分に確保する。
- ・ 御嵩駅東側のまちが子どもたちにとって「身近なまち」となるように、単元の導入に全体でのまち探検と交流を行う。

#### 課題づくりの導入

(第1時～第5時) まちのひみつをおしえあおう



ふかめる

(第6時～第8時) たんけんのけいかくを立てよう

(第9時～第12時) まちをたんけんしよう



まとめる

(第13時～第15時) 見つけたことをおしえあおう

## 【研究内容2】 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

「まちのひみつ」を見つけるためのまち探検を行う取り組みに対して、試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成功感を味わわせるための手立てを次のように考えた。

### 〈児童に達成感を味わわせるための学習過程の工夫〉

- ・ 全体で体験→交流→確認→グループで体験→交流の学習を行うことでより身近な問題になり、子どもたちに願いを達成する充実感を味わわせることができる。

本時は、全体でまち探検を行ったあとの交流活動にあたり、次回のグループでのまち探検を行うことへの意欲を高める学習として位置づけた。

### 〈一連の学習過程が把握できる学習教材（プリント）の工夫〉

前時では、自分が見つけたことをカードにまとめ、学級全体に教えることをプリントに示し、学習の見通しをもたせて本時にあたる。また、本時の交流活動によって新たにできた自分の願いをプリントに書かせることで、「まちのことをより詳しく捉えるための探検を行う」という次時への活動を子ども自身が把握できるようにする。

## 『研究の視点』

### 【研究内容1】 交通・環境問題を視点とした「生活科」における学習プロデュースのあり方

- ・ 全体でまち探検とその交流活動を位置づけ、課題づくりの導入の時間に時間をかけたことが、御嵩駅東側のまちにあまり行かなかった子どもにまちを身近に感じさせ、2回目のまち探検への自分なりの課題（願い）をもたせることにつながったか。

### 【研究内容2】 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

#### 〈一連の学習過程が把握できる学習教材（プリント）の工夫〉

- ・ 項目別の色分けのカードを使い、地域マップに貼って話す活動は、「ひみつ」を探すための視点を明確にもたせ、まちの場所や人とかかわる新しい自分の課題をもたせることにつながったか。
- ・ 自分の願いをプリントに書いて、ペア交流を行うことは、自分の願いをはっきりともたせることにつながったか。

## 4. 単元の目標と単元指導計画

### 単元の目標

御嵩のまちの人や場所などに関心をもち、探検を通じていろいろな人や施設と適切にかかわり、それらが自分たちの生活と深くかかわっていることに気付き、もっとかかわりを広げようとすることができる。

### 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
御嵩のまちの人や場所、自然などに関心をもち、進んで探検をして、かかわりを広げようとしている。	御嵩のまちを探検してかかわった人や施設や自然、できごとなどを多様な方法で表現し合うことができる。	御嵩のまちにはいろいろな人がいて、さまざまな施設やできごと、自然などがあること、それらとかかわることの楽しさに気付いている。

単元指導計画 ときどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～ (全15時間)

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準・方法	指導・援助
ま ち の ひ み つ を お し え	1 「まちのひみつ」に対する興味・関心をもち、まち探検に出かけて探す意欲を高めることができる。	1. 友だちや教師の知っている「まちのひみつ」を聞く。 2. 課題 「まちのひみつ」を見つけにいく計画をしよう。 3. 「まちのひみつ」見つけの活動内容を知る。 4. 探検の約束をする。 ・交通安全について ・活動の内容 わたしたちのまちにはどんなひみつがあるのかな。 早くさがしにいきたいな。	「まちのひみつ」に対する興味・関心をもち、まち探検に出かけて探す意欲を高めている。 〔関心・意欲・態度〕 (会話・発表)	・教師がまちで見つけた、子どもが興味をひきそうなものを「まちのひみつ」として写真で提示し、「ひみつ」を探するための視点を与える。
あ お う	2 探検に出かけた御嵩駅東側のまちの建物、人、道路、自然などに目を向け、「まちのひみつ」を探することができる。	1. 活動の約束を確認する。 2. 課題 「まちのひみつ」を見つけよう。 3. 「まちのひみつ」見つけの探検を行う。 ・学級ごとに並んで、担任とともにまちを歩き、建物・人・道路・自然について見つけたことをメモする。 いろいろな「まちのひみつ」を見つけたよ。 友だちにも教えたいな。	まちの中の人、店、公共物や公共施設をよく見て歩き、「まちのひみつ」を探している。 〔関心・意欲・態度〕 (行動、メモ)	・子どもたちの安全に十分留意して行動する。 ・子どもたちが見つけた「まちのひみつ」を紹介しながら、建物や人、道路に注目させる。
	4 まちで興味をもった人や場所、できごとを「まちのひみつ」として、絵や文でカードにかくことができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 見つけた「まちのひみつ」をカードにかこう。 3. たんけんメモから、自分が見つけた「まちのひみつ」をカードに絵や文でかく。 4. カードを見せながら、隣の席の子に「まちのひみつ」を教える。 見つけた「まちのひみつ」をカードにかけたよ。 クラスみんなに話したいな。	まちで見つけたことや興味をもったことを、絵や文を使ってカードにかくことができる。 〔思考・表現〕 (カード、会話)	・「まちのひみつ」は付箋紙で色分けして地域マップに貼る。 建物(店、駅など)・・・青色 店やさまざまな施設の人・・・黄色 道路・・・ピンク色 動植物などの自然物・・・緑色
(本時)	5 「まちのひみつ」を教え合うことで、まちには、自分の知らないこともあり、行ってみたい場所や見てみたいことを見つけ、もう一度探検へ行ってみたいという意欲をもつことができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 見つけた「まちのひみつ」を教え合おう。 3. 見つけた「まちのひみつ」を発表し、地域マップに貼る。 4. 友だちの発表を聞いて、思い出したことやさらに見つけたことをグループでカードにかいて地域マップに加える。 5. 探検したり、地域マップにまとめたりして思ったことを話す。 6. 自分でも行ってみたい場所や見てみたいこと、ほかにも「まちのひみつ」がありそうな場所や思いをプリントに書いて、話す。(ペア→全体) 7. まち探検への意欲を高める。 行ったことがないお店がいっぱいあるよ。 お店は中を見ないとよくわからないから、見てみたいな。	自分の見つけたことを積極的に話している。 〔関心・意欲・態度〕 (発表・つぶやき) 自分が行ってみたい場所や見てみたいことを見つけている。 〔関心・意欲・態度〕 (プリント・会話・発表)	・発表した子と同じ場所のカードを貼らせ、付け足し内容があれば発表させて内容を深める。 ・多くの子どもたちが見たことがない店の中の写真を見せたり、地域マップのカードがあまり貼られていない場所にも注目させたりし、身近な場所でありながら今まで自分が知らなかったものへの興味・関心を高めさせる。 ・ペア交流をし、マップを指差しするなど、行ってみたい場所を全員に表現させる。
た ん け ん の け い か く を 立	6 友だちと行ってみたい場所を話し合ったり、持ち物を準備したり、探検に行く際のルールやマナーを考えたりして、まち探検に行く計画を立てることができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 お店の「まちのひみつ」を見つける探検計画をしよう。 3. まち探検したい場所を出し合い、グループで話し合う。 ・探検したい場所、探検したい理由を話す。 ・探検する場所(お店を3つ)を決める。 ・探検先でしたいことを考え、見たいこと、聞きたいことをプリントに書く。 見てみたいところの計画はしっかりできたよ。 でも、ちゃんと行けるか心配だな。	行きたい場所や探検方法について進んで話し合い、探検の計画を立てている。 〔関心・意欲・態度〕 (会話、プリント)	・前時までには学級で作成した「まちのひみつ」を貼った地域マップを掲示しておき、町探検への意欲を高める。 ・どんなものが見たいのか、何を質問したいのか、探検場所での目的を明確にさせる。

て よ う	7 まちに出て、人とかかわりながら探検を行うには、安全面やマナー、友だちとの協力を考えて計画や準備を行う必要があることに気付くことができる。	1. 学校探検での約束を振り返る。 2. 課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まち探検の約束を考えよう。</span> 3. グループでまちを歩くときの約束を考える。 ・交通安全について（危険箇所の確認） ・不審者に出会った場合の対応について ・自分勝手な行動をしない 4. お店の中での約束を考え、確認する。 5. 探検のコースを決め、道のりを地図プリントにかき、気をつける場所をグループで確認する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">約束や気をつけることがよくわかったよ。 でも、お店の人にちゃんと話せるか心配だな。</span>	安全面やマナー、友だちとの協力などを考えて計画や準備を行う必要があることに気付いている。 〔気付き〕 (会話、プリント)	・探検中に気をつけること、特に安全にかかわることがらは、繰り返し指導する。 ・探検先でのマナーについて、お店の人の気持ちになって考えさせる。
	8 店の人役とインタビューする役にわかれてインタビュー劇をして練習することを通して、探検でまちの人とかかわるときのマナーや約束を身につけることができる。	1. お店の中でのマナーや約束を確認する。 2. 課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お店の人にインタビューをする練習をしよう。</span> 3. お店の人の気持ちを考えて、質問する言葉を書く。 4. お店の人役と質問する役にわかれてインタビュー劇をする。 5. 劇をして気付いたことをグループで話し合い、言葉を直したり、付け加えたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">上手なインタビューの仕方がわかったよ。 ドキドキするけど、ひみつが見つけれられるように頑張るよ。</span>	お店の人の気持ちを考え、気持ちのよいあいさつ、適切な言葉遣いや行動を書いたり、劇で行ったりしている。 〔思考・表現〕 (プリント、行動(劇))	・あいさつや言葉遣いによってお店の人がどんな気持ちになるかを考えさせ、適切な話し方ができるように指導する。 ・劇では、お店でのマナーや約束も意識させて実演させ、身につけられるようにする。
ま ち を た ん け ん し よ う	9 10 11 12 自分たちで立てた計画に基づいて、グループで協力しながら、施設や人々などとかかわりを持ち、まち探検を楽しむことができる。	1. 活動の約束の確認をする。(安全面) 2. 課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分が知りたい「まちのひみつ」を見つけに行こう。</span> 3. 学級ごとに並んで、蟹薬師まで歩く。 4. 交通安全を考えながら、グループで歩く。 5. 各お店で、計画した活動を行う。 ・あいさつをきちんと行い、丁寧な言葉遣いでインタビューをする。 ・聞いたことをメモする。 ・約束の時間までに、集合場所(蟹薬師)に戻ってくる。 6. 学校へ戻り、メモから見つけたことをプリントにかく。 ・探検したお店の様子 ・見つけたことや出会った人の様子 ・お店の人から聞いたこと <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見に行ったお店のひみつをいっぱい見つけたよ。 他のグループの友だちにも教えたいな。</span>	グループの友だちと協力しながら探検を楽しみ、まちの人に進んであいさつをしたり、質問したりし、積極的にかかわろうとしている。 〔関心・意欲・態度〕 (行動、会話)  これまでに気付かなかったまちの人や場所について気付いている。 〔気付き〕 (探検メモ、プリント、会話)	・複数の教員で連絡を取り合い、子どもたちの安全を確保する。 ・保護者ボランティアの方に事前に活動内容を伝え、危険が予想される場所に立ってもらい、子どもたちの安全を確認してもらおう。 ・交通ルール、あいさつやお店でのマナーなどについて不適当な行動に対しては、その場で指導する。 ・見つけたことや気付いたことは、メモをとるよう声をかけ、あとでカードに表現する際の手がかりとして活用させる。
見 つ け た こ と を お し え	13 14 探検して気付いたことや見つけたことを、聞く人にわかりやすい発表方法を選び、工夫してまとめることができる。	1. まち探検の様子を振り返る。 2. 課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「まちのひみつ」と発表会の準備をしよう。</span> 3. グループで、どんなことを、どのように発表するか話し合う。 4. 発表の言葉を書いたり、使うものをつくったりする。 5. 発表の練習をする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発表の準備はできたよ。 みんなに聞いて喜んでもらえる発表にしたいな。</span>	聞く人にわかりやすい発表になるように、絵や道具を用いたり、話し方を考えたりして、工夫してまとめることができる。 〔思考・表現〕 (プリント、会話、行動)	・教科書の例を参照させ、自分たちの発表したい内容に合った表現方法を選ぶように声をかける。 ・練習をグループ内で見合い、気付いたことを教え合うようにする。 ・練習をもとに発表に使うものを手直しするように助言する。

あ お う	15 まち探検で見つけたことや 気付いたことを自分なりの 方法で表現し、友だちと交流 しながら自分の住んでいる まちやまちの人に愛着をも つことができる。	1. 楽しい発表会になる話し方、聞き方を確認する。 2. 課題 「まちのひみつ」発表会をして、まち博士になろう。 3. グループごとに探検したことを発表する。 4. 自分の発表を振り返る。 聞く人にわかるように発表することを頑張ったよ。 友だちの発表を聞いて、御嵩のまちのよいところがたく さんわかったよ。わたしたちのまちはすてきななあ。	自分で発表したり、友だ ちの発表を聞いたりし て、自分のまちにはよい ところがたくさんあるこ とに気付いている。 〔気付き〕 (発表、会話)	・聞き手が見やすいような場 の設定をしたり、発表の順番 やきまりを板書しておいた りして、楽しい発表会になる ように環境を整える。 ・聞き手が質問したり、感想 を言ったりするようにして、 単調な発表会にならないよ うにする。
-------------	---	--	--	--

### 第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成21年11月26日(木) 第5校時

場所 会議室

授業者 可児 恭子

川口 和彦

高木 美智代

#### 1 単元名 見よう!聞こう!みたけの森しぜんたんけん

～「わくわくたんけん」を中心とした地域学習の展開～

#### 2 指導の立場

##### (1) 教材について

「みたけの森」は、人々の散策、レクリエーションなど、保健休養機能を考慮し整備された生活環境保全林である。敷地は広くたくさんの散歩道があり、池、神社、水車、塔など様々な要素があるうえササユリの群生地や湿原などがあり、地元住民には広く親しまれている。

本単元では、まず、自分たちの住んでいる御嵩町には、自然豊かな「みたけの森」があることを知る。そして、みたけの森の保全を継続的に行ってみえる地域の自然名人さんたちとみたけの森自然探検をすることにより、人々の願いを知るとともに、ササユリをはじめとして貴重な植物があることを知る。また、秋には、自分たちだけでみたけの森自然探検をし、春との比較をしながら秋の様子を知る。そして、貴重なみたけの森の自然を守りたいという心情を持つとともに、単元の終末では、みたけの森の自然を守ることが環境を守ることにつながっていることをポスターや新聞などで表現させたい。

##### (2) 本時について

本時は、外部講師(岐阜県博物館勤務 千藤克彦先生)による授業で、みたけの森の自然を守ることが地球温暖化を防ぎ、地球の環境をよくすることにつながっていることを学ぶ時間である。児童は前時までに春と秋のみたけの森を探検することで、春と秋の自然の違いやそれぞれに見られた自然の豊かさを感じ取っている。自然の豊かさは、人々の目を楽しませ気持ちを豊かにしてくれるだけではなく、地球の環境をよくすることにつながっていることに気づかせたい。そのためには、まず、今、世界的な規模で問題となっている地球温暖化について知ること。温暖化の一因となっている二酸化炭素について知ること。二酸化炭素を吸って酸素を出すのが植物であると知ること。そして、みたけの森の自然を自分も守っていこうとする気持ちになってほしいと願っている。

##### (3) 児童の実態

男子65名 女子34名(7組籍2名) 計99名の学年である。

本単元で春にみたけの森自然探検に出かける前にみたけの森に行ったことがない児童がおよそ2割いた。8割の児童も、5月に行われるみたけの森まつりなどに出かけただけで、森の中まで散策したことのある児童はほとんどいなかった。

例年は5月に行う春のみたけの森自然探検を、今年はササユリが咲き始める6月初旬に行い、みたけの森には、貴重なササユリの群生地があることやギフチョウの幼虫のえさであるカンアオイが自生していること、また、それらの植物を守るために多くの自然名人さんたちが活動して見えることを初めて知った。特に、きれいに咲き始めたササユリの花が種から花をつけるまでに7年かかることを知ったことは、大きな驚きであり大切にしたいと思う気持ちにもなった。

11月の秋のみたけの森自然探検では、春との違いを感じながら秋の様子を観察したが、春との違いを捉えている児童が多くいた。ササユリの姿が消えていたこと、モミジなどの色づく木々が多く見られたこと、アベマキ、コナラ、シラカシなどのドングリがたくさん落ちていたこと、カンアオイの葉がひっそりと生えていたこと、虫の姿がほとんど消えていたことなど春にどこで何を見たのか鮮明に覚えている児童が意外と多く、その場所で立ち止まっただけでは、探検をすることができた。

その後の日記やみたけの森新聞では、見つけた違いや分かったこと、みたけの森がすばらしいところであることをまとめている児童が多くいた。そして、また、みたけの森へ行ってみたい、みたけの森がすきであるという感情を持つことができたと感じられた。が、みたけの森を守ることが地球の環境をよくすることにつながっているとはまだ考えられていない。

#### (4) 同和教育の観点

本時の展開では、具体的に次の3点が人権同和教育の観点となる。

- ・地球温暖化や酸素と二酸化炭素の循環作用（酸素を使って二酸化炭素を出すのは人間や動物、二酸化炭素を使って酸素を出すのは植物）を知ることで、「認識力」を高めることができる。
- ・感想を発表するとき、相手のことを考えて分かりやすく伝えようとする中で、「行動力」を高めることができる。
- ・感想を交流する中で、仲間のよさに気づき、自分の意見や思いをより深めていくことが、「自己啓発力」につながる。

### 3 研究のテーマに関わって

#### (1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造  
～「交通・環境学習」を視点として～

3年生のめざす子どもの姿、研究の重点

- ・御嵩町の自然や環境に興味関心を持つことができる。
- ・初めての「総合的な学習」への取り組み方を身につける。  
課題意識を持つ→課題を作る→調査・検証方法を考える→継続的な取り組み、調査活・動・調べ学習→結果の考察→考察したことを他へ伝える→自分たちの生活や行動の見直し・実践  
・調べたことや考察したことをまとめ、人前でもしっかりと話し伝えることができる。

## (2) 研究内容と関わって

### 【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「総合的な学習」における学習プロデュースのあり方

みたけの森自然探検に出かける前に調査したところ、みたけの森に出かけたことのある児童は全体の8割程度、みたけの森の奥を散策した児童においてはほとんどいなかった。また、みたけの森の自然を保全しようと活動している人々がいらっしやることを知る児童もいないのが現状であった。そのため、みたけの森をもっと身近に感じ、御嵩町には貴重な自然が残っていること、その自然を保全しようと活動してみえる方々がいらっしやること、さらには、みたけの森を大切にすることは、地球の環境をよくすることにつながっていることを知ってほしいという願いから本単元を構成した。

### 【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

3年生の児童は、初めて「総合的な学習」に取り組む。本単元の春のみたけの森自然探検では、みたけの森の存在を知り、探検するときの注意や自然名人さんへの接し方を考え、ササユリやカンアオイなど何を見つけてくるか自分なりのめあてを持って臨んだ。そして、見つけてきたことや分かったことを新聞にまとめ、教室に掲示し交流したり、代表作品を中央廊下に掲示し全校へ発信したりした。秋のみたけの森自然探検では、春のみたけの森の様子を思い出した上で、春との違いを見つけることを課題に探検に出かけた。そして、春と同様見つけたことや分かったことを新聞にまとめ、教室で交流したり全校へ発信したりした。本時、自然を大切にすることが環境をよくすることにつながっていることを知り、自分にもできることは何か考えたり、本時以降、自然探検や環境学習会を通して分かったことや気づいたことを自分なりの方法でまとめたり、発表したりさせたい。

### 【研究内容3】情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方

2回のみたけの森自然探検の情報発信は新聞という形でまとめた。また、春の探検の後は、自然名人さんに教えていただいて分かったことや自分が見つけたことや考えたことを手紙という形で発信した。本時、環境に関する自分なりの生活化を考えさせ、単元の終末では、単元全体を通して分かったことや今後自分がやってみたいことなどを自分なりの方法でまとめさせ、発表会という形でみんなの前で話をさせたい。

## (3) 研究の視点

- ・この単元を仕組んだことで、子どもたちは自分たちが住む御嵩町の自然や環境に興味関心を持つことができたか。
- ・外部講師を招いて環境学習の授業を仕組んだことで、自然を守ることが環境をよくすることにつながることを理解し、環境に関する自分なりの生活化を考えることができたか。

「見よう!聞こう!みたけの森ぜんたんけん!」単元指導計画 (全16時間)

《単元目標》

- ①みたけの森を歩きいろいろな植物や虫、鳥などとの出会いを通して、自然に興味関心を持つことができる。
- ②御嵩の自然に触れることを通して、御嵩町の自然の豊かさを体感し、御嵩町にササユリをはじめとして貴重な自然があることを知る。
- ③御嵩町の自然を広く人々に知らせたり、自然を保護することを目的とした活動を継続的に行っている地域の人々の願いを知る。
- ④みたけの森の自然に親しみ、自然を守る活動をしている人々とふれあうことを通して、自分たちもこの貴重な御嵩の自然を守りたいという心情を持つことができる。
- ⑤自然を守ることが、地球環境を守ることに繋がっていることを知る。

時	ねらい	学習活動	評価◎、留意点・
1	保全林「みたけの森」の存在を知り、みたけの森自然探検を行う意欲を持ち、探検の計画を立てることができる。	1. 「みたけの森」とはどんなところか教師からお話を聞く。 ・貴重な自然が残されている。 ・御嵩町にはこの自然を守る活動をしている自然名人さんがいる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">春のみたけの森自然の計画を立てよう。</div> 2. しおり作りをする。 ・探検のしかた、注意、持ち物などを知る。 ・何を見てくるかめあてを持つ。 ・名人さんに質問したいことを考える。	・学年集会を開き、みたけの森探検の概要を知らせる。 ・「みたけの自然を守る会」に方々と日程調整。講師依頼。 ◎みたけの森で何を見つけてくるか自分のめあてを持つことができる。
2 3 4 5	自然名人さんとみたけの森を歩き、みたけの森の貴重な自然を見つけることができる。	1. 出発式 ・自然名人さんとの出会い。挨拶。 ・めあて、注意点の確認。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自然名人さんと一緒に、みたけの森をたんけんしよう。</div> 2. みたけの森を探検する。 ・ササユリの群生地を見学する。 ・自然名人さんにいろいろな貴重な植物を教えていただく。 ・見つけたことやわかったことをしおりにメモする。 3. 終わりの会:自然名人さんたちにお礼	・自然名人さんへの接し方を考えさせる。 ・歩道の真ん中を歩く。 ・ササユリ、カンアオイ、ハナイカダなどを観察させる。 ◎自然名人さんに教えていたことや自分で見つけたこと、わかったことをたくさんしおりにメモすることができる。
6	みたけの森を探検してわかったことを新聞にまとめることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう。</div> 1. 「みたけの森新聞」を作る。 ・しおりにメモしてきたことをもとに、絵と文で見つけたことやわかったことをまとめる。 2. 教室に掲示をして交流する。	◎新聞に見つけたことやわかったことをまとめることができる。 ◎みたけの森がすばらしいところであることに気づくことができる。
7	自然名人さんにお礼の手紙を送ることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お世話になった自然名人さんたちにお手紙を書こう。</div> 1. お礼の手紙を書く。 ・グループの担当だった名人さん宛に書く。 ・お礼だけでなく、教えていただいたことや自分がわかったことを名人さんに知らせる内容にする。 2. 書いた手紙をみんなで読みあう。	◎教えていただいて、わかったことを書いて、名人さんへの感謝の気持ちを伝えることができる。 ・子どもたちが書いた手紙を名人さんへ届ける。

時	ねらい	学 習 活 動	評価方法・留意点
8	秋のみたけの森自然探検を行う意欲を持ち、探検の計画を立てることができる。	1. 春のみたけの森がどんな様子だったか思い出話し合う。 秋のみたけの森自然の計画を立てよう 2. しおり作りをする。 ・探検のしかた、注意、持ち物などを知る。 ・何を見てくるかめあてを持つ。	・春の様子の写真資料を掲示する。 ◎春と比べて見てみたいものや知りたいことを決め、自分のめあてを持つことができる。
9 10 11 12	秋のみたけの森を歩き、春の様子との違いを見つけることができる。	1. 出発式 ・めあて、注意点の確認。 <u>秋のみたけの森をたんけんしよう。</u> 2. 秋のみたけの森を探検する。 ・ササユリやドングリなどを見学する。 ・春とどのように様子が変わったかを観察する。 ・見つけたことやわかったことをしおりにメモする。	◎実ができていること、葉の色が変わっていることなど秋の様子に気づくことができる。 ◎自分で見つけたこと、わかったことをたくさんしおりにメモすることができる。
13	みたけの森を探検してわかったことを新聞にまとめることができる。	<u>秋のみたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう。</u> 1. 「みたけの森新聞」を作る。 ・しおりにメモしてきたことをもとに、絵と文で見つけたことやわかったことをまとめる。 ・春と比べて変化している秋の様子をかく。	◎新聞で見つけたことやわかったことをまとめることができる。 ◎みたけの森がすばらしいところであることを再認識することができる。
14 本時	御嵩の自然を守ることが、温暖化を防ぐこととつながっていることを知る。	1. みたけの森を探検した感想を話し合う。 ・ササユリなど珍しい貴重な自然がいっぱいあった。 <u>自然を大切にすることと地球の環境をよくすることがつながっていることを知ろう。</u> 2. 地球温暖化について知る。 3. 地球温暖化を防ぐにはどうしたらよいか知る。 4. 植物が二酸化炭素を吸収している仕組みを知る。 5. みたけの森を大切にすることが地球の環境をよくしていることにつながっていることを理解する。	・岐阜県地温暖化防止推進センターへ出前講座を依頼。講師派遣してもらう。 ◎環境名人さんのお話を聞き、みたけの自然を大切にすることが自分たちが生活している環境をきれいにする事につながっていることを理解することができる。
15 16	みたけの森自然探検の学習全体を通して、見つけたことやわかったことをまとめ、交流することができる。	1. みたけの森探検や環境学習会を通して、わかったことや気づいたことを話し合う。 <u>みたけの森自然たんけんてわかったことを発表してみんなに知らせよう。</u> 2. 発表の資料作りをする。 ・新聞、作文、ポスター、自分のまとめた方法でまとめる。 3. 発表会をする。	◎みたけの森のすばらしさに気づいたことや、自然を大切にすることが環境を守ることにつながっていることを知ったことをまとめ発表することができる。

☆講師依頼 みたけの森保全グループ 代表 吉川 政夫さん  
御嵩町環境マイスター 田中 晃 さん 0574-67-2401  
岐阜県博物館 千藤 克彦 課長補佐 0575-28-3111

☆みたけの森探検の前には、必ず事前の下見をする。

## 第4学年 社会科学習指導案

日時 : 平成21年11月4日(水) 第2校時

場所 : 4年1組教室

授業者: 奥村 洋可

1 単元名 きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～

2 指導の立場

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領解説 社会編の内容(5)に基づいている。

地域の人々の生活について、次のこと(※)を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

※「次のこと」とは、本単元では上記ウのことである。

本単元では「鉄道の敷設」に着目する。町を走れば必ず見る線路、名鉄の真っ赤な車両―鉄道は、わたしたちの暮らしの中に当たり前存在する交通機関である。しかし、現在名鉄広見線の存続問題が叫ばれており、利用者が約10年で半分に減少している。そこで鉄道が御嵩に敷かれるまでの人々の願いや努力を学習することで、わたしたちの今の暮らしは先人達の強い願いと多くの努力によって発展してきた結果であることを知り、地域社会に対する誇りや愛情を育てたいと考える。また、鉄道が敷かれた当時と今の変化の様子を捉えさせ、本当に名鉄広見線がなくなってしまっているのかを考えさせたい。そして、単元の終末でポスター作りをして駅や商店街に貼ることで地域へ発信させていく。

しかし、現在では車が増え、普段鉄道を利用しないことも多く、子どもたちにとって鉄道があまり身近な存在とは言えないであろう。そのため、鉄道を身近に引き寄せるために、導入で名鉄広見線に乗せる活動を取り入れる。どんな人が乗っているか調べさせたり、駅で働く人の様子を観察させたり、車窓からの景色を見させたりすることで、子どもたちに新しい発見をさせ、学習意欲を高めたい。

(2) 本時について

本時は、鉄道が敷かれるまでの人々の努力や鉄道敷設に懸ける思いを学ぶ時間である。前時までには、鉄道が敷かれるまでの歴史、鉄道敷設を断った経緯を学習することで、児童はなぜ鉄道は結局敷かれることになったのか疑問に感じている。そこで本時、自分たちで鉄道会社を設立してまで鉄道を敷きたかったという強い思いをしっかりと押さえたい。そのために、「鉄道の路線図」と、「鉄道敷設前と後の多治見の絵地図」を資料として用意することで、当時の交通が鉄道中心となっており、鉄道が敷設されると発展していく様子を読み取らせる。また、中島勝国先生を講師としてお願いし、御嵩が栄えていた頃の話聞くことで理解を深めていきたい。それが、今後の学習へとつながり、単元の終末で自分の考えをもち発信するために必要な材料となる。

(3) 児童の実態

本学級は、男子20人 女子17人の計37人である。子どもたちはこれまでの学習を通して、資料が

ら事実を見つけノートに書いたり、2つの資料から読み取ろうとしたりすることができるようになった。しかし、資料からわかることを課題とつなげながら考える力が弱い。また、既習内容や生活経験と社会的事象をつなげて考えることができない子どもが多い。事前のアンケートの結果、名鉄広見線を利用したことのない子どもが11人と学級の約30%であった。そこで、本単元では、生活経験と結びつけることができるよう導入で御嵩駅から電車に乗る活動を位置づけた。また、単元のつながりを大切にしながら単元指導計画を作成することで、既習内容とつなげて資料から読み取る力を育てていくとともに、「読み取りの技」の作成により、課題とつなげて考える力を育てていきたい。

#### (4) 人権同和教育の観点

- ・自分のことだけでなく、利用客や鉄道会社の人などの他の立場の人達の思いを知ることによって、多様な考えをもつことができる。(認識力)
- ・グループ交流で仲間の良さに気づき、自分の意見に生かすことができる。(行動力)
- ・今までの自分の考えを振り返り、今後どうしていくか考えることができる。(自己啓発力)

### 3 研究のテーマにかかわって

#### (1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造  
～「交通・環境学習」を視点として～

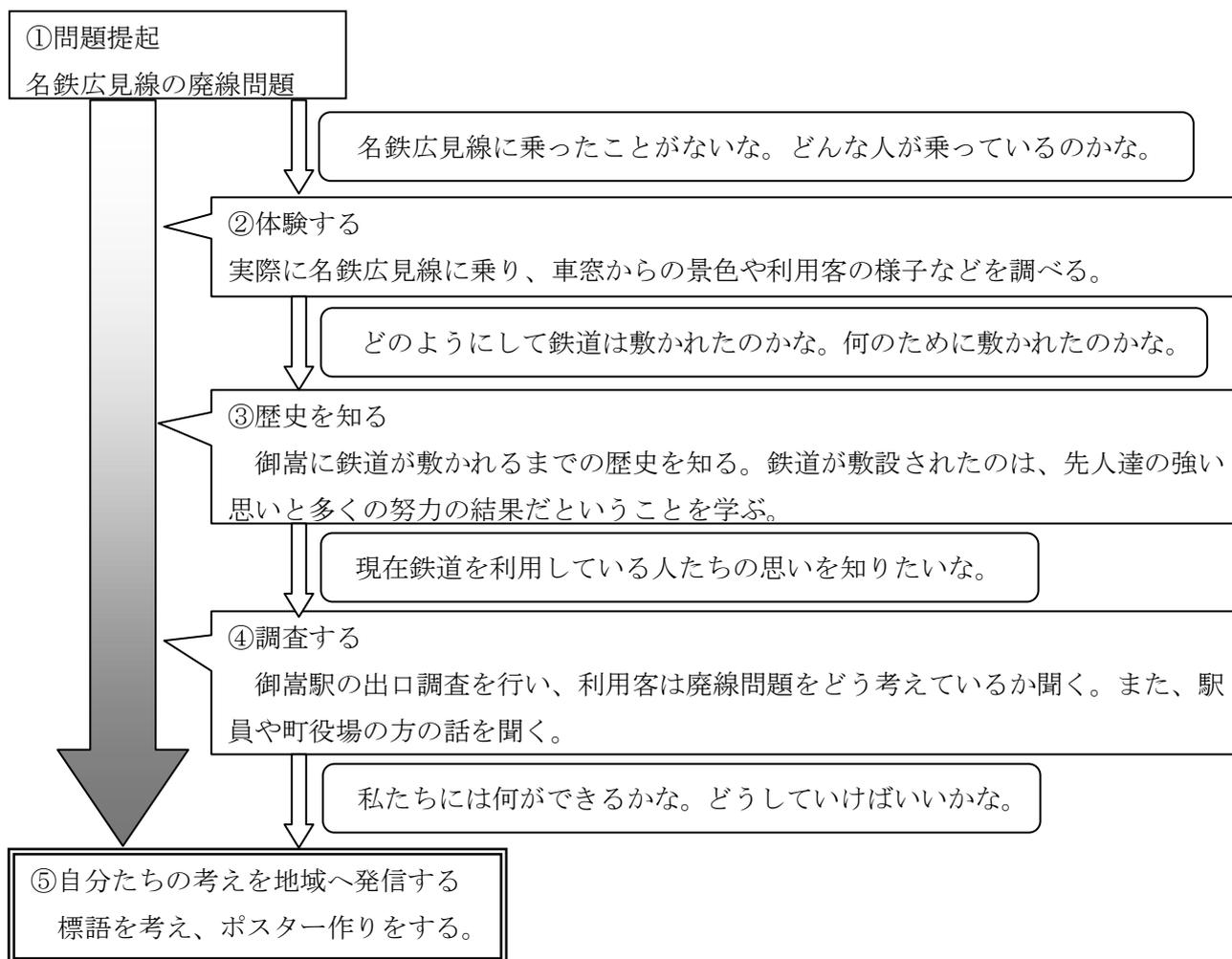
#### 4年生のめざす子どもの姿・研究の重点

鉄道敷設に懸ける先人の願いや努力を知り、利用客や鉄道会社の人話を聞くことで様々な立場の人がいることに気づき、自分たちには何が出来るか考え、それを他者へ発信することができる。

#### (2) 研究内容と関わって

##### 【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「社会科」における学習プロデュースのあり方

現在、御嵩町の移動手段として一番多いのが車である。そして、開通から約80年が経った鉄道（現名鉄広見線）の廃線問題があがっている。子どもたちへのアンケートの結果からも、子どもたちの鉄道離れは否めない。また、電車は御嵩に必要あると思うかという問いに対しては「必要ない」と答えた子どもが学級の約22%にのぼった。そのため、子どもたちにもっと身近に鉄道を感じてほしい、このまま廃線になってしまってもよいかを考えてほしいという思いから本単元を作成した。また、名鉄広見線の廃線問題という現状から自分たちの考えを地域へ発信していくことをねらいとし、そのねらいを達成するために以下の5つの活動を元に単元を構成した。



## 【研究内容 2】 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

子どもに本単元を通し「やりきった」という思いを味わわせるために、様々な活動を取り入れている。それらの学習活動のつながりを持たせるために、単元の初めに学習の見通しを持つ時間を取り、常に目的意識を持ち活動に参加できるようにした。また、資料からの読み取りにおいては、今までの学習から「読み取りの技」を作っており、資料からなかなか読み取ることができない子の手がかりとなっている。その他にも、「読み取り名人コーナー」にて子どもの学びを掲示しておくことで、互いに学び合い、高め合う子どもたちの育成を目指している。

本時では、鉄道が敷かれるまでの人々の努力や鉄道敷設に懸ける思いを理解させるために、よりよい資料を精選するとともに、講師の方に話を伺う。資料の読み取りから、子どもたちは、当時の交通環境が鉄道中心になってきていること、また鉄道が敷かれることで町が発展していくことを学ぶ。そして講師の方の話により、鉄道敷設以前の御嵩町が東濃地区の中心的存在であった様子について聞くことで、より深く「だから鉄道を敷きたかったのだ。」という強い思いに気付かせたい。

### 【研究内容3】情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方

本単元では、乗車体験、資料の読み取り、調査などを通して自分の考えを明確にし、地域へ発信することがねらいに位置づけられている。自分の学習したことをポスターに表し、50周年記念式典や駅や商店街に掲示することで地域の人達へ発信させる。また、今回学んだことを生かし、「家庭で話をしよう。」「電車に乗ろう。」という意識が少しでも高まっていくとよい。

#### (3) 研究の視点

- ・この単元を仕組んだことで、子どもたちが自分たちの住む御嵩町に対する愛着をもつことへつながったか。
- ・資料の読み取りや話し合い、中島さんの話を聞くことで、先人の鉄道敷設に懸ける思いの強さについて理解することができたか。

## 4 単元の目標と単元構想図及び単元指導計画

### (1) 単元の目標

- ・鉄道が敷かれるまでの様子を学習することで、それまでの人々の思いや努力を理解することができる。
- ・学習を通して学んだことから自分の考えを持ち、考えをまとめて地域へ発信することができる。

(3) 単元指導計画

	ねらい	学習活動	評価規準・方法	
第一 次	1	ポスターをもとに名鉄広見線の廃線問題に関心を持ち、鉄道に調べて考えていく意欲をもつことができる。	1. ポスターから知っていることを話し合う。 2. 課題 御嵩から電車がなくなっていいのだろうか。 3. 自分の考えを話し合う。 4. 単元の流れを確認する。 ・乗車体験をする→歴史を学ぶ→調査する→考えを発信する	・廃線問題に関心を持ち、思ったことを進んで話そうとしている。(グループ交流・発表) [関心・意欲・態度]
	2 3	実際に御嵩駅から電車に乗ってその便利さに気付いたり、新しい発見をしたりすることができる。	1. 御嵩駅やそこを走る鉄道について知っていることを交流し合う。 2. 課題 みたけ駅から電車に乗って新しい発見をしよう。 3. 電車に乗る活動をし、気付いたことをメモする。 ・車窓からの景色、乗客の様子、移動時間など	・乗車体験の中で、気付いたことや駅員の話をしおりにメモしている。(しおり) [思考・判断]
	4	気付いたことやわかったことを交流することで、調べていく意欲をもつことができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 電車に乗ってわかったことや不思議に思ったことなどを交流しよう。 3. 自分の考えをまとめ、交流し合う。 4. 線路はどのようにしかれたのか予想を立てる。 ・電車があると便利だからみんなでよくことに決めたのだろう。 ・ダムみたいに反対した人はいなかったのかな。	・メモを元に、自分の考えを仲間に話している。(グループ交流の様子・発表) [技能・表現]
	第二 次	5	鉄道はどのように敷かれたのか調べ、まとめることができる。	1. 前時を振り返る。 2. 課題 鉄道はどのようにしかれたのだろうか。 3. 資料から読み取り、交流する。 4. 学習のまとめをする。 みんなの力を借りて、時間もかけて完成させたのだな。なぜそこまでしてしいたのだろうか。一回断っているのはなぜだろう。
6		鉄道が敷かれる前の人々の願いに気づくことができる。	1. 前時の復習をする。 2. 課題 どうして鉄道ができる話をことわったのだろうか。 3. 資料から読み取り、交流する。 4. 学習のまとめをする。 この時期の御嵩の人にとって、鉄道は必要なかったし、ある方が迷惑だと考えていたのだな。じゃあなんで鉄道はしかれたのだろうか。	・資料をもとに、鉄道が敷かれる前の人々の願いについて理解している。(ノート・発表) [知識・理解]
7 本 時		鉄道を敷くまでの人々の願いや努力について理解することができる。	1. 鉄道会社を作るために株を94%可児郡が負担したことを知る。 2. 課題 どうしてここまでして鉄道をしようとしたのだろうか。 3. 資料から読み取り、交流する。 4. 中島さんの話を聞く。 鉄道を敷かれる前は、御嵩町は東濃地方の中心だった。しかし、鉄道が敷かれ、御嵩町は中心から外れてしまった。昔の活気を取り戻したいという思いもあり、鉄道を敷くことは当時の人々にとって悲願だった。 5. 学習のまとめをする。 長い時間とお金をかけてまで鉄道をしきたかったのは、御嵩町がまた発達してほしいというみんなの思いがあったからなのだ。	・資料をもとに、鉄道敷設に懸ける人々の願いや努力について理解している。(ノート・発表) [知識・理解]

	8	鉄道を敷いた後、人々の生活はどのように変わったのか理解することができる。	<p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. 課題 鉄道を敷いたことで、人々の生活はどのように変わったのだろうか。</p> <p>3. 資料から読み取り、交流する。</p> <p>4. 奥村さんの話を聞く。 ・当時電車に乗ることはみんなの憧れであった。顔戸駅があふれ出るほどの人で埋め尽くされていた。</p> <p>5. 学習のまとめをする。 便利な鉄道を敷かれ、御嵩はまた活気を取り戻した。当時の人達にとって、電車は憧れの存在だった。</p>	・資料をもとに、鉄道を敷いた後、人々の生活はどのように変化したのか理解している。(ノート・発表) [知識・理解]
第三次	9	現在の鉄道利用の様子と利用客や駅員の思いを知ることができる。	<p>1. 現在の鉄道利用の様子を知る。</p> <p>2. 課題 鉄道を利用している人や駅員さんは、今どんな思いをしているのだろうか。</p> <p>3. 出口調査を行う。 ・御嵩駅の改札口付近で出口調査を行う。 (頻度・時間帯・理由など)</p> <p>4. 駅員の話を聞く。 ・やめるのは簡単だが、みんなが乗ってくれるなら残したい。無人駅にして人件費を削減するなど名鉄も努力している。だからみんなに乗ってほしい。</p> <p>5. 学習のまとめをする。 車に乗れる人はいいけど、乗れない人達にとって電車は大切な乗り物なのだな。駅員さんたちも努力しているし乗ってほしい。このまま廃線になってしまっているのかな。</p>	・利用客の思いを知るために、進んでインタビューしている。(行動) [関心・意欲・態度] ・利用客や駅員の思いを知り、ノートにまとめている。(ノート) [思考・判断]
	10	御嵩町役場の方の話を聞き、思いを知ることができる。	<p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. 課題 御嵩町としては、今後どうしていきたいのだろうか。</p> <p>3. 御嵩町役場の方の話を聞く。</p> <p>4. 学習のまとめをする。</p>	・話を聞いてわかったことをノートにまとめている。(ノート・発表) [思考・判断]
	11	自分たちに何ができるか考え、考えたことを発信することができる。	<p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. 課題 私たちには何ができるか考えて発信しよう。</p> <p>3. ポスターを作る。 ・みんなに自分の考えを発信するポスターを作る。 ・考えを発信するために原稿を考える。</p> <p>4. 単元のまとめをする。 考えを発信する。</p>	・自分たちに何ができるか考えている。(ノート・発表) [思考・判断] ・自分の考えをポスターに表している。(行動・ポスター) [技能・表現]
	12 13 14	自分たちに何ができるか考え、考えたことを発信することができる。		

5 本時のねらい

多くの時間やお金をかけてまで鉄道を敷いたのは、鉄道の利便さだけでなく、御嵩をもう一度栄えさせたいという御嵩の人々の強い思いがあったからだということを理解することができる。

6 本時の展開（7 / 14）

	学習活動	指導・援助
つかむ	<p>1. 鉄道会社を作るために可児郡の人達がしたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道会社を作ってまで鉄道を敷こうとしたなんてすごいな。</li> <li>・なんでここまでしてまで鉄道を敷こうとしたのだろう。</li> </ul> <p>2. 課題</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうしてここまでして鉄道をしようとしたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道会社を作るための労力を具体的な数値で表すことでその割合の大きさに驚かせ、課題化へとつなげさせる。</li> <li>・前時までの学習のあゆみを掲示し、既習内容とつなげて考えやすいようにする。</li> <li>・今日の学習では、「読み取りの技」のどのような技が使えるか全体で確認する。</li> </ul>
深める	<p>3. 資料から読み取り、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道がいろいろなところに敷かれるようになってきているな。</li> <li>・鉄道が敷かれた多治見では、駅の周りにたくさんの家が建ち並んでいるよ。</li> <li>・鉄道ができると町が発展するのかな。</li> </ul> <p>4. 中島さんの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鉄道敷設以前」と「鉄道敷設後」の2枚の多治見の絵地図から、鉄道が敷かれることで人が増え、発展していく様子を捉えさせる。</li> <li>・グループで交流することで、気付かなかったことに気付いたり、互いに高めあったりできるようにする。</li> <li>・中島さんの話により、鉄道が運搬や移動に便利だったことだけでなく、もう一度御嵩を発展させたいという人々の強い思いがあったからであることに気付かせる。</li> </ul>
まとめる	<p>5. 学習のまとめをする。</p> <p>鉄道を作るために寄付をしたり手伝ったりしたのは、鉄道をしくことで、御嵩町がまた発展してほしいというみんなの思いがあったからだと思う。だから長い時間とお金をかけてまで鉄道をしいたのだな。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料をもとに、鉄道敷設に懸ける人々の願いや努力について理解している。（ノート・発表）[知識・理解]</p>

## 第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成21年11月19日(木) 第5校時  
場 所 5年3組教室  
授業者 木村 健太郎

1. 単元名 自動車をつくる工業 ～ ～
2. 指導の立場

### (1) 教材について

本単元は学習指導要領社会科の内容(2)を受けて設定し、展開したものである。

(3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること。

イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き

本単元は、大単元「わたしたちの生活と工業生産」の中の小単元「自動車をつくる工業」にあたる。自動車産業は日本の工業生産額の16%(2004年)を占めており、1種類の製品でこれだけの割合を占めている産業は他にはなく、日本の代表的な工業生産である。また、子供の生活に密接に関係し、日常生活に欠かすことのできない工業製品としても位置づけられている。

「この自動車は、どんな工場でどのように作られているのだろう」、「働いている人たちは、効率よく生産するために、どんな工夫や努力をしているのだろう」と自動車がつくられ販売するまでの過程を学習する中で日本の工業生産と国民生活との関わりについて考えたい。また、日本の産業を支えている重要な工場が海外へ進出していることや環境に優しい燃料を使った車、品質や安全を重視した車など、これからの自動車工業についても学習する。

可児市内、御嵩町内には、自動車部品を扱う関連工場が多くあり、地域での工業生産の様子が分かる分布図や統計資料、写真、VTR等の資料を活用したり、調べたりすることを通して、身近な自動車がどのように作られているのか、もの作りにかかる人々の工夫や努力を理解し、工業生産と国民生活との関わりを身近に捉えさせるように学習する。

自動車に対する子供たちの「調べてみたい、知りたい」ということから課題設定をし、実際に見学に行き見たり、聞いたりすることで自動車工場についての興味・関心を持たせ、最後まで意欲的に学習できるようにしていく。そして、カヤバ工業(可児市)や豊精密機械工業(御嵩町)などの地域の関連部品工場を取り上げ、生産過程を学習することを通して、日本の工業生産を学ぶことができると考える。また、日本の工業生産を代表する自動車産業は、関連部品工場やそれに関わる人々の工夫や努力によって支えられていることが理解できると考える。

さらに、その部品が可児市や御嵩町で生産されていることから、社会的事象がより身近なもの、生活認識に深く関わって、子供たちが意欲・関心をもって追求できるのではないかと考える。

### (2) 本時について

環境にやさしいガソリン以外の燃料で走る自動車の開発が進められる中、御嵩町の自動車工場の中でも環境を考えた工夫や努力があることを気づかせ、工場で働く人々の願いをつかませたい。そして、私たち

が住む御嵩町の環境改善のために、自分たちが行動を起こしていきたいという意欲につなげていきたい。

### (3) 児童の実態 (男子18名、女子21名、計39名)

本学級は男子18名、女子21名、計39名である。全体的に課題に対して意欲的に取り組む児童が多く、資料から分かることをたくさん見つけたいという思いをもっている。自分の考えに自信がある時には、積極的に挙手することができる。しかしその反面、自分の考えに自信がもてない時には、挙手する児童に限られてしまい、活発な意見交流をする力が弱い。これまで社会科においては、自分の考えをまとめてから「ペア交流」の時間をとって、個人的に自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を聞いて自分の意見に取り入れたりする活動を行ってきた。また、全体交流では、仲間の意見に対して、付け足したり、まとめたりしてお互いの意見が深まることが少なかった。そこで、「だから読み」、「前の学習読み」、「まとめ読み」、「付けたし読み」を提示し、資料から分かったことの発言の方法を指導した。これらの指導を繰り返すことで、4月頃に比べると全体交流の中で発表する子が多くなった。

また、国語や総合の授業では、グループごとに環境についての調べ学習を行い、環境新聞の作成やグループ発表会を通して、環境への意欲関心を高めることができた。しかし、まだ自分達が関わっている大きな問題として考えることができず、自分達の生活を見直し、実践していく力は弱い。本単元の学習を通して、児童が「自分達の生活から変えていこう」という意識をもてるように指導していきたい。

### (4) 人権同和教育の観点

本時の展開では、具体的に次の3点が人権同和の観点となる。

- ①交流活動において、仲間との違いや共通性を見つめさせることで「自己啓発力」を高めることができる。
- ②全体交流の場で、相手のことを考えて分かりやすく伝えようとする態度を高めることで「行動力」を高めることができる。
- ③自動車工場の工夫や努力の裏側にある、願いを読み取ることで、「認識力」を高めることができる。

## 3. 研究テーマに関わって

### (1) 研究主題

# 思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造

## ～「交通・環境学習」を視点として～

### 5年生の目指す子どもの姿、研究の重点

- ・御嵩町の歴史や特色に興味関心をもち、環境への取り組みを調べることができる。
- ・今までの学習の仕方を活かして、必要な資料を選別し、それらを関連させて自分の考えを持つことができる。
- ・調べたことや考察したことを図や表などに分かりやすくまとめ、それらを提示しながらはっきり話し、伝えることができる。

### (2) 研究内容に関わって

#### 【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「社会科」における学習プロデュースのあり方

本単元の「自動車をつくる工業」の学習を通して、御嵩町の環境への意欲関心を高めていき、校区内の

空気を測定する実験、運動場に様々な車を集め廃棄ガス調べを行う「クルマ大集合」を行い、環境問題を身近な事に考えることができた。また、自分たちの住む御嵩町の豊精密工業で行われている環境を考えた人々の工夫や努力を学ぶことにより、自分たちにもできる環境に優しい生活を考えさせる事ができるようにした。

#### 【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

資料提示→課題設定→予想と見通し→個人追求→ペア交流→全体交流→まとめという流れを児童自身が把握していて、次に何をするのか見通しをもてるようにした。

児童の生活により近い可児市のカヤバ工業、御嵩町の豊精密工業を授業の中に取り上げ、学習意欲を高めると共に、自動車産業が自分たちの生活に近いものだと実感できるようにした。

また、特別講師として御嵩の自動車工場で働く方々を招き、児童が直接、働いている方の工夫や努力、願いを理解することができた。

#### 【研究内容3】情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方

本単元での学習を通して学んだことを、エコ番組を作成して全校に発信していきたいと考える。学習を通して発見した御嵩町の直面している環境問題、今すぐ実践できる環境に優しい生活をお昼の放送で伝えていきたいと考える。また、2月に行われる可児市環境フェスタで御嵩小学校の代表として参加したいと考える。

### 『研究の視点』

#### 【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「生活科」における学習プロセスのあり方

・本時は、今まで学習してきた自動車から、私たちの住む御嵩町の環境を考える総合的な学習の導入である。本時を通して、御嵩町の環境のために、自分たちができることを考えたいという意欲につながったかどうか。

#### 【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

・御嵩の工場で働く方を招いたことは、御嵩の自動車工場で働く人々の願いにせまるために効果的であったか。  
・資料が問題解決をするのに効果的であったか。

#### 【研究内容3】

#### 4. 単元の目標

(1) 我が国の自動車工業の生産の仕組みについて関心をもち、意欲的に調べることを通して、人や環境への配慮など、工業生産と国民生活との関わりについて関心をもつことができる。

(関心・意欲・態度)

(2) 我が国の自動車工業の生産について、生産の仕組みや働く人々の工夫や努力、関連工場との関わり、外国とのつながりなどと関連付けて考えることができる。

(思考・判断)

(3) 見学を通して、具体的に調査したり、統計や写真、働く人の話など資料を目的に応じて活用したりして、調べたことを自分なりの方法で表現することができる。

(技能・表現)

(4) 我が国の自動車工業の生産が機械化や分業化によって効率よく大量に生産されていること、ものの品質や安全性を重視して働く人々の工夫や努力が重ねられていることを理解することができる。

(知識・理解)

5. 単元指導計画

欄	ねらい	学習活動	資料	評価基準	指導・援助
1	私たちの身の回りの生活の中から、工業製品を見つけ、その役割を考えることを通して、工業製品についての興味・関心を持つことができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>工業によって原材料から工業製品に変わることを視覚的にとらえる。</li> <li>「工業」がどのようなものなのか知る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">私たちの生活は、どのような工業製品に支えられているのだろうか。</div> </li> <li>我が国の工業が生活の中で、どのような役割をしているのか考える。</li> <li>アンケートを行う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭にある工業製品について調べてくる。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート用紙</li> </ul>	<p>〈ア－①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活との関わりから、我が国の工業製品に関心を持ち、進んで調べようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業によって原材料が工業製品に変わることを視覚的に捉えることによって「工業」に興味を持たせる。</li> </ul>
2	自動車は、便利で生活に欠かせないことを認識し、自動車についての興味・関心をもち、自動車がどのように生産されるのか課題をもつことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">アンケートをもとに、気付いたことを交流しよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果をもとに、交流する。</li> <li>自動車が日本の工業に欠かせないものであることが分かる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>移動するのに便利</li> <li>生活に欠かせない</li> </ul> </li> <li>世界にも日本の自動車が、輸出されていることが分かる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の自動車性能のすばらしさが分かる。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果</li> <li>日本の工業生産額の円グラフ</li> <li>日本の輸出額のグラフ</li> </ul>	<p>〈イ－①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の自動車生産の仕組みなどに問題意識をもち、適切に課題設定を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から、複数ある工業製品の値段を示すことによって、自動車は高価なのに多くの家庭にあることに気付かせる。また、その理由を考えることによって、自動車に興味をもち、生産の過程について関心をもたせる。</li> <li>世界にも日本の自動車が使われていることをおさえる。</li> </ul>
3	学習課題をもとに予想を立て、自動車組み立て工場について興味・関心をもち、見学への意欲をもたせ、見学計画を立てることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>自動車工場のある場所、工場の大きさ、様子などを知る。</li> <li>見学の計画を立てる。(トヨタ工場)  <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな機械があるか。</li> <li>働いている人はどのくらいいるか。</li> <li>仕事の様子。</li> <li>製造方法。</li> </ul> </li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">3万個もある自動車部品を組み立てている組み立て工場の見学計画を立てよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海3県の白地図</li> <li>トヨタ市や地図や写真</li> <li>見学計画プリント</li> </ul>	<p>〈ア－②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の自動車生産についての見通しをもち、意欲的に課題追求しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車のボンネットを実際に見た上で、課題を立てていく。</li> </ul>
4 5	見学を通して、自動車工場の様子や、働く人の工夫や努力を調べることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>自動車の組み立ての順序、作業などの工夫を調べる。</li> <li>見学内容をまとめる。(トヨタ工場見学)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">自動車は、どのように組み立てているのだろうか。</div> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学のしおり</li> </ul>	<p>〈ア－③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工場の見学、働く人の様子などから自動車生産の工程や働く人の工夫や努力を追求している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学の仕方を常に意識させ、安全に見学させる。</li> <li>あらかじめ、子どもたちに聞きたいことをまとめさせる。</li> </ul>

6	見学して分かったことを交流することを通して、自動車がつくられる秘密や働く人々の工夫や努力が分かる。	<p>1 トヨタ工場見学で分かったことを交流する。</p> <p>どうして間違いもなく注文した車がつくられるのだろう。。</p> <p>2 自動車が次々と生産される仕組みが分かる。</p> <p>3 間違いなく、組み立てができる仕組みが分かる。</p>		<p>〈ウー①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の組み立ての順序や働く人の工夫など、調べた過程や結果をまとめようとしている。</li> </ul>	
7	自動車部品工場に関する資料から、関連工場における工夫や努力を調べる。	<p>どうしてトヨタは3万点もの部品があるのに、一人ひとりの希望に合わせて早く正確に車を作ることができるのだろう。</p> <p>1 自動車はどんな部品からできているのか調べ、話し合う。</p> <p>2 どのようにして作られているのか調べる。</p> <p>3 分布図から、自動車工場と関連工場の分布の様子を読み取り、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場で働いている人の写真</li> </ul>	<p>〈アー④〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工場で働く人の資料などから自動車関連工場で働く人の工夫や努力について意欲的に課題追求をしている。</li> </ul>	
8	輸送に関する図や、豊田市周辺の様子を調べ、自動車の部品や製品の輸送の様子をつかむ。	<p>完成した自動車は、どのようにして消費者のもとに届くのだろう。</p> <p>1 消費者の注文が指示書によって工場に伝えられ、工場に必要な部品が指示書によって部品工場に伝えられる事が分かる。</p> <p>2 指示書の良い点、大変な点について話し合う。</p> <p>3 西田さんの話から仕事の大変さや工夫していることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊田市周辺の地図</li> </ul>	<p>〈イー②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より効率よく生産するためのジャスト・イン・タイム方式について、事実をもとに様々な面から追求して考え判断している。</li> </ul>	
12	世界のトヨタ工場の分布や現地生産の仕組みを調べ、いろいろな国とのつながりを知る。	<p>どうして日本の自動車工場が海外に進出するようになったのだろう。</p> <p>1 海外生産拠点地図を見て、どの国に自動車工場があるのか調べる。</p> <p>2 海外で生産する良さを考え話し合う。</p> <p>3 海外で品質のよい自動車を作るために、工夫していることを見つけ、話し合う。</p>		<p>〈イー③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無駄のない生産方式を支えるために、運輸の仕事が大きな役割を果たしていることに気付くことができる。</li> </ul>	
13 14	いろいろなクルマの排気ガスを調べて、これからのクルマとの関わりを考えることができる。 (クルマ大集合)	<p>環境によい車と普通の車はどのような違いがあるのだろう。</p> <p>1 エコカーを見学し、試乗する。</p> <p>2 いろいろなクルマの排気ガスを調べる。</p> <p>3 ハイブリッドカーや燃料電池車の良さが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化の原因の二酸化炭素の排出が半分ですむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイブリッドカー</li> <li>普通の車</li> <li>燃料電池車</li> <li>福祉車輛</li> <li>CO2測定の試薬</li> </ul>	<p>〈エー①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境への配慮から自動車生産の抱える課題について気付くことができる。</li> </ul>	
15	ハイブリッドカー開発の様子について	<p>ハイブリッドカー誕生には、どのような</p>		<p>〈ウー②〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産と</li> </ul>	

	調べ 生産オーストの 努力や願いを考える。	<p>工夫や努力が合ったのだろう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ハイブリッドカーで使われているエネルギーについて考える。</li> <li>2 工夫や努力について話し合う。</li> <li>3 ハイブリッドカー以外のエコカーについて話し合う。</li> <li>4 本時のまとめをする。</li> <li>5 次時は、製品ではなく、自動車をつくる過程での環境を考えた工夫や努力を考えていくことを示唆する。</li> </ol>		<p>目標について 資料を効果的に活用して調べている。</p>	
16 本時	御嵩の自動車工場 で働く人の環境を考 えた工夫や努力を考 える。	<p>御嵩町の自動車工場では、どのような工夫や努力があるのだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 御嵩町の環境問題を確認する。</li> <li>2 御嵩町内の自動車工場の環境を考えた工夫や努力を考える。</li> <li>3 地球環境にやさしい自動車づくりを目指し開発され、生産されていることがわかる。</li> </ol>		<p>〈ウー③〉 ・自動車生産と国民生活との関わりについて、資料を効果的に活用して調べている。</p>	

1	御嵩町内で起きている環境問題やその取り組みについて考えることができる。	<p>御嵩町では、どんな環境問題が起きているのだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 御嵩町の環境問題について調べる。</li> <li>2 御嵩町の環境問題への取り組みについて調べる。</li> <li>3 御嵩町の環境改善のために、自分たちができることを考える。</li> </ol>	<p>・御嵩町の環境白書</p>		
2	自分たちが実践できる環境に優しい暮らし方を考えることができる。	<p>環境にやさしい暮らしの計画を立てよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境にやさしい暮らしの実践計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・使わない電気の消灯</li> <li>・テレビの時間を30分減らす。</li> <li>・お風呂は連続して入る。</li> <li>・歩いて行けるところへは歩いていく。</li> <li>・ポイ捨てをしない</li> <li>・いらぬ紙はリサイクルボックスに入れる。</li> <li>・水野無駄使いを減らす。</li> </ul> </li> </ol>	<p>・</p>		<p>・環境にやさしい生活様式の事例を紹介する。 ・家族と一緒に実践できるように協力を依頼する。 ・実践項目とともに、目標を立てる重要性を訴える。</p>
3	グループごとに取り組むテーマを決め	<p>家庭で実践する計画を立てよう。</p>	<p>・B紙 ・画用紙</p>		

<p>て、実践計画を立てることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1週間各家庭で実践できることを考える。</li> <li>・グループごとで取り組む内容を決める。</li> <li>2 どのように実践をしていくのか計画を立てる。</li> </ol>	<p>・写真</p>		
--------------------------	---	------------	--	--

<p>4 5</p>	<p>グループごとに撮影会に向けて準備をすることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>撮影会の準備をしよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループごとに実践の記録をまとめる</li> <li>2 撮影会に向けて準備をする。</li> <li>3 お互いに発表を見合い、アドバイスし合う。</li> </ol>			
<p>6</p>	<p>グループごとにビデオ撮影の準備ができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>エコ番組を作成しよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループごとに取り組んだテーマのビデオ撮影の準備をする。</li> <li>2 お互いのグループの発表を見合いアドバイスをし合う。</li> </ol>			
<p>7</p>	<p>グループごとにビデオ撮影を行う。</p>				

# クルマ大集合 実施計画

## 1. 概要

- 日時：平成 21 年 11 月 11 日（水）8：30～15：40  
（①8：30～10：10，②10：35～12：15，③14：00～15：40）  
（事務局集合時間；8:00）

雨天時の変更は、11 月 11 日（水）7:30 時点で判断する。  
（雨天決行、ただし室内のみ）

- 場所：御嵩町立御嵩小学校，5 年生，3 クラス，119 名

- 内容：クルマ大集合

- ①「排気ガス」調べ
- ②「燃料電池車」説明、試乗
- ③「電気自動車」説明
- ④「福祉車両」説明

- クルマ：持ち込み車輛（6 種類，7 台）

- ・燃料電池車（1 台）：日産自動車株式会社
- ・電気自動車（1 台）：株式会社ゼロスポーツ
- ・天然ガス車（1 台）：東邦ガス株式会社
- ・ハイブリッド車（1 台）：御嵩小学校（プリウス）
- ・福祉車両（2 台）：御嵩町
- ・ガソリン車（1 台）：御嵩小学校（フィット）

- 授業支援者（10 名）

- ・御嵩町・・・・・・・・・・3 名
- ・日産自動車株式会社・・・・2 名
- ・株式会社ゼロスポーツ・・・・1 名
- ・東邦ガス株式会社・・・・2 名
- ・交通システム研究所・・・・2 名

注）別途、小学校 5 年生担任+2～3 人の先生方が補助する。

- 当日の主な進行内容

- ①宣言、協力者紹介
- ②各自動車説明，各スペース説明
- ③試乗会・見学・排気ガス調べへ
  - ・「燃料電池車」説明，試乗
  - ・各車説明：「電気自動車」「天然ガス車」「福祉車両」
  - ・排気ガス調べ：「天然ガス車」「ハイブリッド車」「ガソリン車」
- ④感想，終了

## 2. 当日のタイムスケジュール

	活動内容	留意点												
8:00	<b>事務局 集合</b> 各車学校到着、運動場に誘導 配置確認・準備(各コーナー、カラーコーン)	各車、運動場入口から入る(別紙図参照)。 校門受け担当: 小学校 注. 全校児童に運動場に出ないように放送する。												
8:15	<b>当日打ち合わせ</b> ・役割分担 ・当日の流れの確認													
開始	児童 運動場朝礼台前集合													
8:30 (②10:35) (③14:00)	<司会: 先生 or 児童> ・宣言(児童) ・各車両とスタッフ紹介 ・各スペース説明													
	<b>移動</b> 事前に決めておいたグループへ分かれる。	※ あらかじめグループ分けする。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>グループA</th> <th>グループB</th> <th>グループC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料電池車 説明・試乗</td> <td>電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明</td> <td>排気ガス 調べ</td> </tr> <tr> <td>排気ガス 調べ</td> <td>燃料電池車 説明・試乗</td> <td>電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明</td> </tr> <tr> <td>電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明</td> <td>排気ガス 調べ</td> <td>燃料電池車 説明・試乗</td> </tr> </tbody> </table>	グループA	グループB	グループC	燃料電池車 説明・試乗	電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明	排気ガス 調べ	排気ガス 調べ	燃料電池車 説明・試乗	電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明	電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明	排気ガス 調べ	燃料電池車 説明・試乗	注. 周辺の安全確保。 「スペース①」: 燃料電池車の試乗(4人/回)、説明 「スペース②」: 車両説明
グループA	グループB	グループC												
燃料電池車 説明・試乗	電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明	排気ガス 調べ												
排気ガス 調べ	燃料電池車 説明・試乗	電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明												
電気自動車 天然ガス車 福祉車両 説明	排気ガス 調べ	燃料電池車 説明・試乗												
8:40 (②10:45) (③14:10)		電気自動車, 天然ガス車, 福祉車両 「スペース③」: 排気ガス調べ 天然ガス車, ハイブリッド車, ガソリン車												
9:05 (②11:10) (③14:35)		※ ワークシート 事前に, 知りたいこと(におい, 音など)や排気ガスのきれいクルマを予測しておく。												
9:30 (②11:35) (③15:00)		まとめは, 終了後室内。												
9:55 (②12:00) (③15:25)	朝礼台前集合 感想を発表する													
10:10 (②12:15)	終了													

(㊸15 : 40)		
------------	--	--

### 3. 実施内容

#### (1) 燃料電池車試乗/説明について

- ・スペース①で実施。
- ・グループ全員が試乗する。1回あたり3~4名が乗車する。→シートベルト装着支援(2名)
- ・乗車時間は1回あたり約5分とする。

#### (2) 車両説明について

- ・スペース②で実施する。
- ・説明する車両は、「電気自動車」「天然ガス車」「福祉車両」の3車種とする。
- ・説明時間は、各車種8分程度とする。

#### (3) 排気ガス調べについて

- ・スペース③で実施
- ・排気ガスを実験する車両は、「天然ガス車」「ハイブリッド車」「ガソリン車」の3車種とする。
- ・排気ガスとして、NO<sub>x</sub>, SPM, CO<sub>2</sub>を調べる。

##### a. NO<sub>x</sub>: ザルツマン試薬または気体検知管による実験

持ち込んだ車輛のマフラーにビニール袋を差し込み、排気ガスを採取する。

採取した排気ガスのビニール袋に試薬(ザルツマン試薬)を入れ、試薬の色を比較する。さらに、試薬の色を比較する際に、ユニメーターを用いて、それぞれのクルマのNO<sub>x</sub>を計測することも可能である。



①マフラーから排気ガスを集めよう



②試薬を入れよう



③ビニール袋を振って色の変化を見よう

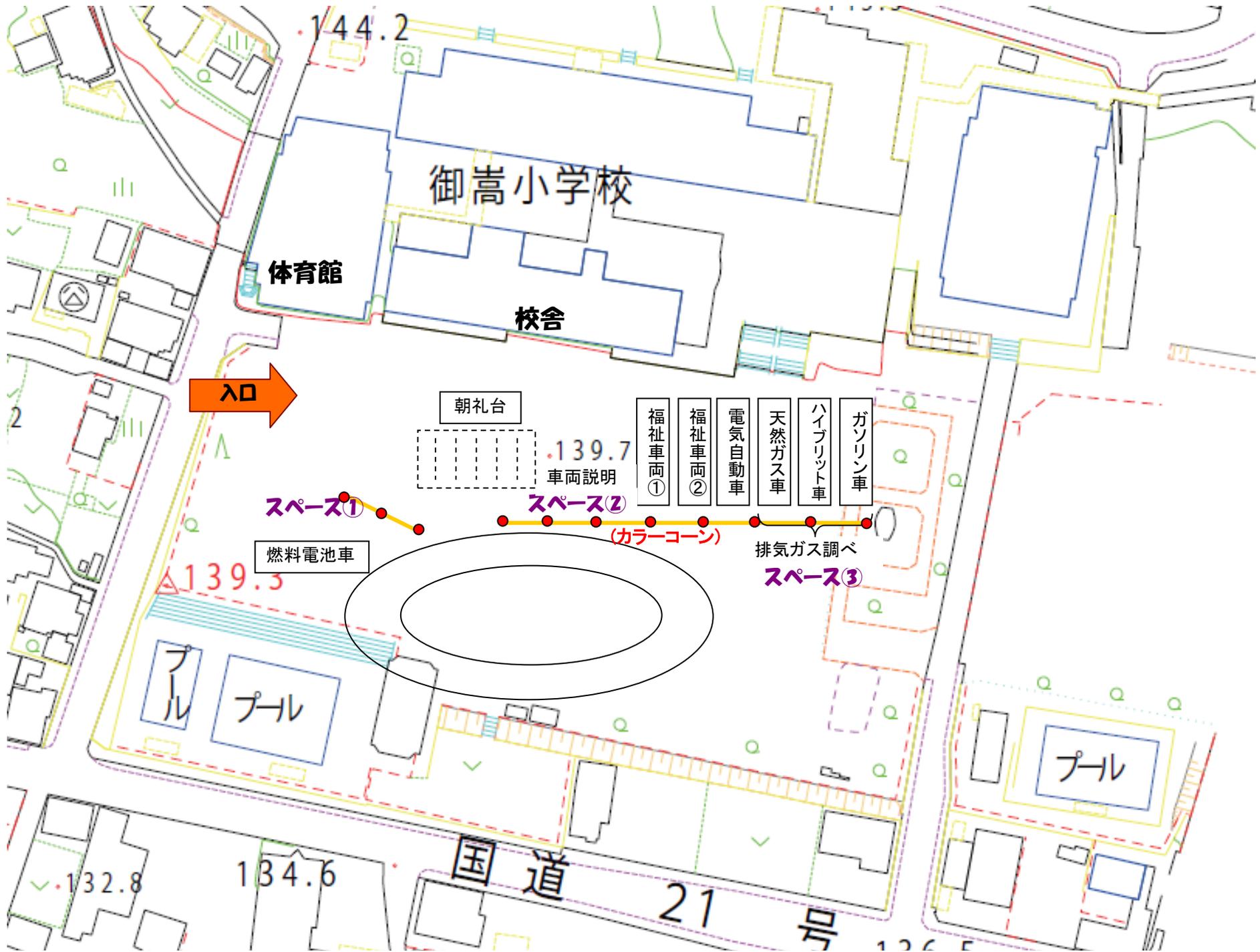
④試薬の色の変化を比較しよう





## 当日の役割担当(案)

役割		所属	担当者(氏名)
司会		御嵩小学校	
宣言		児童	
各クルマの説明 (1名)	電気自動車	株式会社ゼロスポーツ	1名
	天然ガス車	東邦ガス株式会社	2名
	福祉車両	御嵩町	2名
排気ガス調べ (総数6名)	総括(調査方法説明)	御嵩小学校	
	試乗担当	御嵩小学校	
	天然ガス車	東邦ガス株式会社	
	ハイブリッド車	御嵩小学校	
	ガソリン車	御嵩小学校	
燃料電池車試乗・説明(2名)		日産自動車株式会社	
シートベルト装着補助(2名)		御嵩町、御嵩小	
写真撮影		交通システム研究所	
タイムキーパー		御嵩小	
警備(安全監視:児童、見学者の燃料電池車試乗コーナーへの立ち入り禁止)		御嵩町	2名



御嵩小学校

体育館

校舎

入口

朝礼台

139.7  
車両説明

福祉車両①

福祉車両②

電気自動車

天然ガス車

ハイブリット車

ガソリン車

スペース①

スペース②

(カラーコーン)

排気ガス調べ

スペース③

燃料電池車

139.5

プール

プール

プール

国道 21 号

21 号

132.8

134.6

136.5

## 第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成21年12月11日(金)

5、6時

場所 体育館  
授業者 兼氏 敏夫

1 単元名 日本のすばらしさを知ろう。～わたしたちの生活と交通、環境から～

2 指導の立場

(1) 教材について

御嵩小の校区には、江戸時代の街道の一つである中山道がある。わが町は、前身の東山道の頃より可児大寺や愚溪寺の門前町として栄えていたが、御嵩塾がおかれたことにより宿場町としても大いににぎわいを見せていた。明治時代になると、区裁判所や学校が他の町に先がけて創設され、御嵩町は、宿場町から東濃地方の中心地としてのにぎやかさを見せた。更に昭和に入ると、名鉄電車がわが町と名古屋をつなぐ交通機関として登場し、交通機関の充実と町の発展は切っても切れない関係にあるといえる。

本単元では、明治村を見学したことをきっかけに、交通機関に目を向けさせ、私たちの生活との関わりについて意識を高めたいと考え設定したものである。六年生の「総合的な学習の時間」としては出口の学習であり、導入での「御嵩の歴史の扉を開こう～御嵩から日本へ～」に続く学習である。そこで、明治村見学で見たり、聞いたり、体験・実感したことを大切にしながら、江戸・明治・現在の3つの時代のそれぞれの交通機関(道や乗り物)について班ごとにテーマを持ち、調べまとめることにした。更に私たちの町にも目を向け、時代ごとの町交通について考えさせることで、今の御嵩町の交通に関わる課題を子供なりに捉えることをねらっている。各班の発表を交流することで、環境問題や未来の交通機関などに対する考えを持つことで、3学期の議会見学の時に「御嵩町のこれからのために、6年3組が考えること」という議案書を提案したいと考えている。

(2) 本時について

本時は、今まで班ごとに調べ進めまとめたことを交流し合い、交流の中で、自分たちの調べたことと比べたり、自分の意見を持ったり、お互いの意見を交流していく中で環境問題やこれからの交通機関について考え、更に自分たちが住む御嵩町の将来の交通機関や生活についても関心を持てるようにしたい。

そのためには、自分たちのテーマで調べたことが調べっぱなしで終始するのではなく、調べたことを通して、調べたことから自分たちのもっとうべきだった、昔の時代のことだが今にはない良さがあるなど「願い」を持たせるようにしたい。自分たちの「願い」を持つことで、仲間の説明を聞く姿も、より自分たちと比べたり、共感したり、反対したりする自分たちで深めていく交流になると願っている。

(3) 児童の実態

男子18名 女子14名 計32名の学級である。大きな団地があるということから団地に住む児童が多い。だが、地域性もあり、地区ごとに(団地も含め)お祭りなどの行事が多く、児童も多くが積極的に参加している。また亜炭坑や大庭台にある池などこの御嵩地区のことについては、今までの総合的な学習の時間や社会科の学習で学んでいるので知識としてしっかりと持っている。

反面、名鉄広見線や産廃問題など御嵩町の現在の課題、問題については関心が薄く、自分たちは電車に乗らないから、関係ないからという意識も見られる。

本単元、本時の学習を通して、自分たちの住む御嵩町にもっともっと関心を持ち、もっと住みやすいよりよい御嵩町にするためにどうしたらよいのかという自分の、自分たちの考えを持ち更にそのことを言葉や資料にして発信していける活動を進めていきたい。

(4) 同和教育の観点

・まとめを発表するとき、相手のことを考えてわかりやすく伝えようとするので、「行動

力」を高めることができる。

・交流の中で、仲間のよさに気づき、自分の意見や思いをより深めていくことが「自己啓発力」につながる。

### 3 研究のテーマに関わって

#### (1) 研究主題

## 思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造 ～「交通・環境学習」を視点として～

6年生の目指す子供の姿、研究の重点

- ・今までの学習を生かして、自分たちのテーマに沿って必要な資料を選別し、それらに関連させてまとめることができる。
- ・調べたことを、わかりやすくまとめ、それらを提示しながらわかりやすく仲間に伝えることができる。
- ・自分たちが住む御嵩町にもっともっと関心を持ち、もっと住みやすい、よりよい御嵩町にするために具体的な考え、意見を持つことができる。

#### (2) 研究内容と関わって

##### 【研究内容1】

・交通、環境問題を視点とした「総合的な学習」における学習プロセスのあり方  
先に児童の実態で述べたように、児童は御嵩町のことに対して知識は持っているが、思いはもっともっと高めていくことが可能であると考えている。そのため本単元の「日本のすばらしさを知ろう。」の学習を通して、御嵩町での江戸、明治、現在の交通機関について班ごとに調べ進め、交流することでより自分たちの住んでいる国、先は御嵩町の交通に関心を持ち、もっと住みやすいよりよい日本（御嵩町）にするためにはという願いを持ち、それを発信していくことをねらいとした。

##### 【研究内容2】

・問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方  
班ごとのテーマについて調べすすめてまとめる中で、それに対する自分たちの願い、考えを持たせて交流会に臨ませたい。そうすることで、仲間の説明を聞く中で、自分たちの調べたことと比べたり、共感したり、反対の考えを持つことができると考える。そういった考えを、学級の提案として3学期に御嵩町議会に提案する計画を立てていくことなどを通して、資料提示→課題設定→班で課題追求→全体交流→意見→まとめ→提案という流れを児童の学習の進みに沿って創り上げていくことを考えている。

##### 【研究内容3】

・情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方  
本時での学習を通して、児童が考えたこと思ったことなどを、学級でまとめ「6年3組のすてきな御嵩町にするために」（仮称）という提案書を作成し、3学期の御嵩町議会見学の時に提案していきたいと考えている。

#### (3) 研究の視点

- ・この単元を仕組んだことで、児童は自分たちが住む日本（御嵩町）の交通に関心を深め、もっと住みやすいよりよい日本（御嵩町）にしたいという意欲を高めることができたか。
- ・交流会（ポスターセッション）が、児童の、自分たちが住む日本（御嵩町）に関心を深め、もっと住みやすいよりよい日本（御嵩町）にしたいという意欲を高めることに有効であったか。

「日本のすばらしさを知ろう。～わたしたちの生活と交通、環境から～」  
 単元指導計画（全15時間）

- 〈単元目標〉 ・郷土や日本、世界の国々の歴史や生活、交通や環境に関心を持って学び、自分の学んだことを整理して、かつ伝える相手を意識して多様な方法でわかりやすく表現することができる。
- ・学習のまとめでは、それまでに学習したことから、自分の興味関心をもったことについて個人課題を設定し、それらについて自ら追求し、深めることができる。

時	ね ら い	学 習 活 動	評価◎ 留意点
1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「明治村」という文化財を知り日本の生活や交通などの変化について関心を持つことができる。</li> <li>明治村見学の班の計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化財「明治村」とはどんな所か、資料や教師の話からイメージを持つ。</li> <li>○「明治村」にある人力車やSLなどの交通機関の存在を知り、現在の交通機関との違いや変化その背景にある歴史的な事情について関心を持つ。</li> <li>○明治村見学での班の課題を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会を開き、文化財「明治村」の概要を知る。</li> <li>◎「明治村」で何を見て、何を調べてくるのか班や自分の課題を持つことができる。</li> </ul>
3 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>「明治村」見学から、人力車、SL、蒸気機関車などの明治時代の交通機関を見て、聞いて実際に乗ってみたりすることで、体感することができる。</li> <li>・現在や江戸時代の交通機関との違いや変化を実感することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「明治村」見学体験学習</li> <li>・人力車は大きい。動かす人は大変だろう。</li> <li>・SLや蒸気機関車は快適だった。運賃とかはいくらなんだろう。今みたいに多くの人が平等に乗れたのかなあ。</li> <li>・御嵩町では、明治時代にはSLや蒸気機関車、人力車があったのかなあ。どんな乗り物があったのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスや電車など、明治村に行くのに使用する現在の交通機関についても関心を持つことで、明治村の人力車などと比較して考えることができる。</li> <li>◎明治村での、課題に応じた体験や感想などをしおりにメモすることができる。</li> </ul>

<p>8 9 10 11 12 13</p>	<p>・班ごとに、テーマに沿って調べ、まとめていく。</p>	<p>○江戸、明治、現在の3つの時代の交通機関について班ごとのテーマを決めることができる。 ○班で、インターネット、資料（学校や地域の図書館）、実際に体験したり、見たり聞いたりすることなどを通して調べ進めていく。 ○調べ進めていったことをB紙にまとめていく。 ○発表の練習をする。</p>	<p>・江戸や現在のテーマでも、明治村見学で学んだことが生かすことができるように、比較したり変化などについてもまとめていくことができる。 ◎自分たちのテーマに沿って、調べ方を工夫することができる。 ◎テーマに即した調べ方をすることができる。</p>
<p>14 15 本時</p>	<p>・発表会（ポスターセッション）を通して、3つの時代の交通機関の進歩や変化について知り、そこから見えてくる環境問題や未来の交通機関に対して等自分の考えを持つことができる。</p>	<p>○発表会（ポスターセッション）のあり方について確認する。 ・各班を前半（A）後半（B）に分けて、Aは前半は見に来た他の班のBに対して自分たちのまとめの説明をする。Bは決められたスケジュールに沿って他の班のAの説明を聞く。後半になると（ホイスルの合図）説明するのと聞くのが入れ替わる。 ○発表会（ポスターセッション）を行う。その中で、聞いている側も自分たちの考えを発表する。</p>	<p>◎発表会（ポスターセッション）を通して、3つの時代の交通機関の進歩や変化について知り、そこから見えてくる環境問題や未来の交通機関などに対して自分の考えを持つことができる。 ◎調べてまとめたことをわかりやすく説明できる。 ◎仲間の説明を聞いて、自分の考えを発言できる。</p>

## 資料 3：教員によるとりまとめ資料 (全校研究会を振り返って)

### <目次>

- 資料 3-1 第 4 学年：第 2 回全校「研究会を振り返って
- 資料 3-2 第 5 学年：第 3 回全校「研究会を振り返って

# 第2回 全校研究会を振り返って

平成21年11月4日(水)実施

中学年部 4年1組(社会科)  
「きょう土に伝わる願い」  
～ぼくらの電車いきいきプラン～  
奥村 洋可 先生

## 思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造 ～「交通・環境学習」を視点として～

### 【4年生のめざす子どもの姿・研究の重点】

鉄道敷設に懸ける先人の願いや努力を知り、利用客や鉄道会社の人話を聞くことで様々な立場の人がいることに気づき、自分たちには何ができるのか考え、それを他者へ発信することができる。

### 〈研究内容1〉交通環境問題を視点とした社会科における学習プロデュースのあり方

#### 【視点1】

この単元を仕組んだことで子どもたちが自分たちが住む御嵩町に対する愛着を持つことにつながったか。

(授業研究意見)

- ・この単元が仕組まれなければ、子どもたちは名鉄について知らずにいた。学習することで名鉄電車の現状を知り、駅を残そうという気持ちにつながるのではないか。
- ・廃線になる前に取り挙げたことで興味がわいた。興味＝愛着ではないが、「自分たちの町に電車が通っている。自分たちの町の電車がなくなってしまう。」という思いを持つことができたのではないか。
- ・電車に乗ってみたい、利用者の声を聞いてみたい、実際に体験する学習を仕組んだことでいろいろな発見をすることができた。
- ・真名田池の学習を鉄道の学習に組み替えた。どの子にも参加できる身近な題材になった。
- ・単元の流れがよい。今の御嵩の問題を取り上げ、御嵩の歴史も学習し、自分たちにできることを考えて、地域へ発信するところまで仕組まれていてよい。自分たちで動きを起こそうとするところがよい。
- ・単元を通して、御嵩の鉄道をつくった人の強い願いをもう少し深く伝えたい。
- ・私財を使って鉄道をつくった人の願い、人物にせまる授業を仕組むことで子どもたちに伝える方法もあるのでは。一人の人物に焦点をあてて、その人の強い思いを学ぶ方法もよい。
- ・今日の学習では、「電車が便利」でまとめられていたが、車の便利さになれている子どもたちにとってはどうか？

(考察)

- ・新しい単元を立ち上げたことに意味がある。自分たちの住んでいる御嵩を身近に感じることができた。名鉄電車に乗ったことがない子どもたちも、電車に乗るという体験ができ、名鉄の廃線問題を考えるきっかけとなった。
- ・鉄道敷設に懸ける人々の強い願いを伝える単元の流れにしたい。

## 〈研究内容2〉 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

### 【視点2】

資料の読み取りや話し合い、中島さんの話を聞くことで、先人の鉄道敷設に懸ける思いの強さについて理解することができたか。

(授業研究意見)

- ・子どもたちの意欲的な姿が見られた。姿勢がよい。たくさんの挙手。長い発言。声の大きさもよい。今までの指導が生きている。よく訓練され、しつけられている。
- ・資料の「読み取りの技」が生きていた。よく育っている。積み重ねがある。
- ・数字を読み取っている子、付け足しをする子、つなげて考える子がいた。
- ・ちょうどよい資料を見つけるのが大変だった。なかなか見つからない。
- ・資料2はわかりやすかった。資料1の方が読み取れていない子がいた。
- ・本時の資料では、人々の思いの強さがかかるのか？資料から想像して考えていた。どのような努力をしたのか（かかった費用、時間など）がわかる資料があるとよい。
- ・思いの強さにせまられるように、付け足しの子を意図的に指名したり、切り返し発問で立ち止まって考えさせたりして、もっと意見を深めるとよかった。プリントに書いたこと以上の意見が出てきたのではないか。
- ・中島先生のお話は、「当時の人々は電気と電車が憧れだった」の部分が人々の思いにつながっていた。鉄道を敷いた人々の願いについて話していただくとよかった。

(考察)

- ・資料を集めるのが大変だが、ねらいに迫る資料を提示することが大切。
- ・子どもたちの意見を意図的につなげ、深めていくことが大切。

### 【二村文生先生からのご指導】

- ・意欲的な子どもたちの姿が見られた。先生と子どもが一体になっている。この単元に力がいっていることがわかった。
- ・発言のしかたが鍛えていある。（声の大きさ、「資料1から～」の言い方、聞き逃さないようにするなど）
- ・反応のしかたが画一的になっている。自然な反応ができるようになるといい。
- ・「読み取りの技」は今までの学習の中からつくりあげてきたもの。多角的な見方ができる。
- ・意見を言わせるときに、意図的に「～と～を比べてみると・・・」と言わせてみる。意図的にしゃべらせることで、比べることを意識させる。
- ・2つの事象をならべてくらべること、今までの学習や経験と比べてみることは、これからの生きる力につながっていく。
- ・資料の事実からわかったことを深めるために、もう一度考えさせる。そして課題に迫らせる。
- ・本時の資料では先人の願いはつかみにくい。鉄道敷設者の平井さん、野呂さんの子孫に尋ねてみることもよいのでは。
- ・新しい単元をつくることは、こちらの思いや意図がうまくつながらないことがあるが、つらぬくテーマや願いがあるとよい。人物を取りあげると扱いやすい。

### 【総括】

- ・新しい単元を立ち上げたことによって子どもたちの意識を御嵩町にむけることができた。
- ・適切な資料を用意することが大切。
- ・子どもたちの意見をつなげたり、切り返したり意図的に深めていく。

# 第3回 全校研究会を振り返って

平成21年11月19日（木）実施

高学年部 5年3組（社会科）  
「自動車をつくる工業」  
～御嵩からのエコ大作戦～  
木村 健太郎 先生

## 思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造 ～「交通・環境学習」を視点として～

### 【4年生のめざす子どもの姿・研究の重点】

- ・御嵩町の歴史や特色に興味関心をもち、環境への取り組みを調べることができる。
- ・今までの学習の仕方を活かして必要な資料を選別しそれらに関連させて自分の考えを持つことができる。
- ・調べたことや考察したことを図や表などにわかりやすくまとめ、それらを提示しながらはつきり話し、伝えることができる。

### 〈研究内容1〉交通環境問題を視点とした社会科における学習プロデュースのあり方

#### 【視点1】

本時は、今まで学習してきた「自動車をつくる工業」のまとめであり、私たちの住む御嵩町の環境を考える総合的な学習の導入である。

本時を通して、御嵩町の環境のために自分たちができることを考えたいという意欲につながったか。

(授業研究意見)

- ・社会科の出口の授業であり、総合的な学習の入り口の授業でもあった。
- ・木村先生の最後の話（みんなが住む御嵩町でも～）で御嵩町を意識させることができた。環境について考える総合のこれからの学習につながっていく。
- ・子どもたちは一生懸命考えていた。社会科で働く人々の願いに注目させ、本時で自分たちにもできることがあるのではと考えるきっかけを作ることができた。
- ・4年生（水、ゴミ）の学習とも関連させるとよい。
- ・流れがすっきりと整然としていた。
- ・御嵩町の企業ということをもっと意識させるには、時間に猶予があるなら、実際に盟和産業へ見学に行くのもよい。
- ・盟和産業を取り上げるにあたっての、資料集め、打ち合わせ、準備が大変だったと思う。大変な努力と労力をかけられたと思う。
- ・環境やリサイクルに対する世の中の考え方が変わっていることをとらえさせたい。

(考察)

- ・「交通・環境学習」に関連させて新しい教材を取り上げたことに意味がある。御嵩町の企業である盟和産業について学習したことが、自分たちの住んでいる御嵩町の環境を考えるきっかけとなった。
- ・工業製品を通して、生産者側からの願いにも、消費者側からの願いのもの、どちらの立場でも寄り添って考えることができる単元の流れにしたい。
- ・大企業でも環境に配慮した生産をし、消費者も環境に配慮した物を選ぶようになり、身近な御嵩町の部品工場でも環境に配慮していることを学習したことによって、自分たちも考えていかなければという思いにつながっていく。

## 〈研究内容2〉 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

### 【視点2】

資料の読み取りや話し合い、福岡さんの話を聞くことで、「盟和産業で働く人のゴミを最小限に抑え、限られた資源を有効に活用したいという願いを理解することができたか。

(授業研究意見)

- ・資料の読み取り方がよかった。たくさんいろいろなことを読み取っていた。
- ・濤さんの「仕事がふえた」という意見をもっと深めていくとよかった。「手間をかけても」「お金をかけても」環境を守らなければという企業の社会的責任を考えさせることにつながったのではないか。
- ・濤さんの意見を取り挙げ、もう何人かの子にどんな考えか話させるとよかった。
- ・資料を読み取る時に、ノートに自分の考えを文章できちんと書いてたが、資料に直接、メモ程度にたくさん書き込ませておいて、そのメモをもとに、黒板の資料を指し示しながら話させると、伝える話し方ができるのではないか。
- ・リサイクルに3億円かけているが、企業はもともとがとれなければ取り組まない。そういう面も子どもたちに考えさせたい。福岡さんのお話にもそういった内容が盛り込まれていた。石油枯渇のグラフより、利益利潤のグラフでもよかったのではないか。
- ・福岡さんのお話の最後のとことで、子どもたちも自分たちにもできることがあるのではないかという考えがもてた。

(考察)

- ・資料を集めるのが大変だが、ねらいに迫る資料を提示することが大切。
- ・子どもたちの意見を意図的につなげ、深めていくことが大切。

### 【武藤裕二指導主事からのご指導】

- ・事実の提示→疑問（子どもたちにつぶやかせたい）→集約→課題（子どもたちの言葉で）→予想→検証するための資料の提示（自分なりの考えを持ち見通しを持つ）  
ここまでが社会科の課題化。できれば、検証するための資料は、どんな資料があれば考えられるか子どもたちに聞いてあげるとよい。
- ・ぐっと立ち止まって考えさせるところを必ず作りたい。「本時でいうと濤さんの意見。みんなはどう思った？」と投げ返すといろいろな子が話し始める。考えが深まる。企業の利潤を求めると、採算が合わなければ取り組まないところも考えさせたい。異質な意見を取り挙げたり、相反するような資料を提示して立ち止まって考えさせるところを作る。
- ・福岡さんのお話の「一人でも勝手なことをするとゴミになってしまう。」というところを取り挙げて考えさせるとよい。必要な情報を収集して、環境についての現状を把握してから、自分たちの活動や行動を考えさせるとよい。

### 【総括】

- ・新しい単元を立ち上げたことによって子どもたちの意識を御嵩町にむけることができた。
- ・適切な資料を用意することが大切。
- ・子どもたちの意見をつなげたり、切り返したり意図的に深めていく。